

《人づくり分野》

生涯学習部

2025年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
			事業類型		c:その他型

1.組織概要

組織の使命	総務担当課として適切な部内運営に寄与し、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。町田市固有の文化財・歴史資料の保護・管理等に努め、それらに触れる機会の提供・情報の発信により、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。	取 り 組 み 等	◆「町田デジタルミュージアム」を利用して、誰もがインターネット上でいつでも、どこでも、無料で町田市の歴史資源の内、約2,000点の考古・歴史・民俗資料を見ることができます。歴史資源をデジタルで公開しているのは、多摩26市中で14市(23区中では15区)です。
所管事務	◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関する事 ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関する事 ◆生涯学習審議会及び文化財保護審議会に関する事 ◆文化財の保護、調査及び収集等に関する事 ◆考古資料室に関する事		

2.2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「学校開放事業」について、市民参加型事業評価を受けて作成した改善プログラムに定めた取組を着実に進める必要があります。◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。◆考古資料室他、所管施設・文化財の維持管理にかかるコスト増への対応が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)			中長期的な取り組み(3~5年)		
◆地域の方々により便利に学校をご利用いただくことを目指す予約システム等の試行・検証を行います。◆町田デジタルミュージアムをより幅広い世代に利用いただけるよう、公開内容の更新を行います。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を実施します。			◆「地域活用型学校」の実現に向け、学校施設の地域活用を推進するための仕組みを整えます。◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震事業を着実に実施します。		
取組状況	個別取組	○ 学校施設利用に係る利便性や施設のセキュリティ向上のため、小学校2校へ予約システム及びスマートロックを試行導入しました。			
		○ 町田デジタルミュージアムに動画を閲覧できるコンテンツを新設し、歴史や文化財について学ぶことが出来る動画の公開を開始しました。			
		○ 国重要文化財旧永井家住宅の耐震補強・修繕の実施にむけて、耐震基礎診断を完了しました。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
学校施設活用制度の試行・検証・導入	-	目標	—	試行準備	試行	導入校拡大準備	導入校拡大	利用申込のシステム化等、学校施設の地域活用に向けた取組状況
		実績	—	試行準備	試行		(2028年度)	
文化財整備事業進捗状況	-	目標	半場遺跡整備	八幡平遺跡整備	耐震基礎診断実施	補強計画案策定	補強等工事完了	~2024年度は高ヶ坂石器時代遺跡、2025年度~は旧永井家住宅
		実績	整備完了	整備完了	実施完了	策定完了	(2030年度)	
町田デジタルミュージアムアクセス数	件	目標	120,000	150,000	190,000	270,000	270,000	町田デジタルミュージアムのアクセス数
		実績	141,081	186,016	261,377	—	(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆「学校開放事業」について、忠生第三小学校及び図師小学校においてスマートフォンのLINEアプリを利用した学校施設の予約システム及び同システムと連携したスマートロックを試行導入し、運用を開始しました。◆2024年度に整備を完了した高ヶ坂石器時代遺跡の発見100周年を記念した講演会「敷石住居址研究の100年」を開催し57名の方にご参加いただき、アンケートで88%の方から満足・大変満足の回答をいただきました。◆国指定重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を完了し、耐震補強・修繕事業の進め方について、文化庁や東京都、事業者との調整を進めました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	87,263	90,430	93,294	2,864	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	416	559	619	60		保険料	0	0	0	0
	物件費	14,738	24,151	33,024	8,873		国庫支出金	8,932	5,535	6,929	1,394
	うち委託料	13,461	22,294	30,911	8,617		都支支出金	5,109	7,209	3,484	△ 3,725
	維持補修費	20,263	13,142	2,197	△ 10,945		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	478	490	456	△ 34
	補助費等	24,988	1,262	2,033	771		その他	172	269	177	△ 92
	減価償却費	7,338	9,588	9,588	0		行政収入 小計(a)	14,691	13,503	11,046	△ 2,457
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 153,677	△ 142,598	△ 144,683	△ 2,085
	賞与・退職手当引当金繰入額	13,778	17,528	15,593	△ 1,935		金融収支差額(d)	△ 149	0	△ 116	△ 116
	行政費用 小計(b)	168,368	156,101	155,729	△ 372		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 153,826	△ 142,598	△ 144,799	△ 2,201
	特別費用(g)	0	0	0	0		特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		△ 153,826	△ 142,598	△ 144,799	△ 2,201

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	旧永井家住宅耐震診断業務委託 11,418千円 本町田遺跡公園管理業務委託 3,195千円 埋蔵文化財調査委託 2,449千円 など	旧永井家住宅・旧荻野家住宅・村野常右衛門生家自動火災報知設備受信機修繕 651千円 本町田遺跡公園多目的トイレ警報ランプ修繕 65千円
主な増減理由	旧永井家住宅耐震診断業務委託料が11,418千円皆増。 高ヶ坂石器時代遺跡整備事業完了報告書作成業務委託料が3,982千円皆減。	本町田遺跡公園縄文住居周壁修繕完了により、市有文化財の修繕料が8,844千円減少。高ヶ坂石器時代遺跡整備完了に伴い工事請負費が3,740千円皆減。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	町田市文化財保護事業費補助金 1,025千円 町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 334千円 など	国宝重要文化財等防災施設整備費補助金(旧永井家住宅防災施設整備事業) 5,722千円 など
主な増減理由	都指定史跡青木家屋敷のオチャバ修繕の実施により、町田市文化財保護事業費補助金が825千円増加。	高ヶ坂石器時代遺跡整備完了等に伴い、国宝重要文化財保存・活用事業費補助金が4,328千円皆減。旧永井家住宅の耐震基礎診断に対する国宝重要文化財等防災施設整備費補助金が5,722千円皆増。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		14,925		15,218		293	
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金		0		0		0	
	その他の流動資産		0	0	0	地方債		5,728		5,761		33	
						賞与引当金		9,197		9,457		260	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	1,093,277	1,083,698	△ 9,579	その他の流動負債		0		0		0	
		土地	954,086	954,086	0	固定負債		112,242		101,657		△ 10,585	
		建物(取得価額)	404,174	404,174	0	地方債		30,568		19,062		△ 11,506	
		建物減価償却累計額	△ 264,983	△ 274,562	△ 9,579	退職手当引当金		81,674		82,595		921	
		工作物(取得価額)	0	0	0	その他の固定負債		0		0		0	
		工作物減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計		127,167		116,875		△ 10,292	
	インフラ資産	無形固定資産	71	62	△ 9	純資産		967,981		968,685		704	
		有形固定資産	0	0	0								
		土地	0	0	0								
		工作物(取得価額)	0	0	0								
		工作物減価償却累計額	0	0	0								
無形固定資産		0	0	0									
建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計		967,981		968,685		704			
その他の固定資産	1,800	1,800	0	負債及び純資産の部合計		1,095,148		1,085,560		△ 9,588			
資産の部合計			1,095,148	1,085,560	△ 9,588								

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)
決算額の主な内訳	本町田遺跡公園 245,664千円 田端遺跡 220,285千円 考古資料室 54,688千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 本町田遺跡公園 多目的施設 31,112千円 考古資料室 141,200千円 など	商標権(まっくう) 62千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、9,579千円減少。	減価償却により、9千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

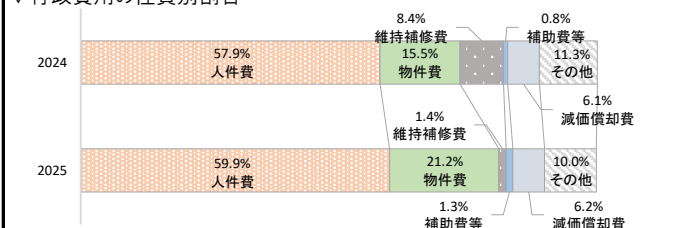
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	11,046	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	145,076	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	5,745
行政サービス活動収支差額(a)	△ 134,030	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 5,745
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 139,775
				一般財源充当調整額	139,775

5.財務構造分析

6.個別分析

▽行政費用の性質別割合

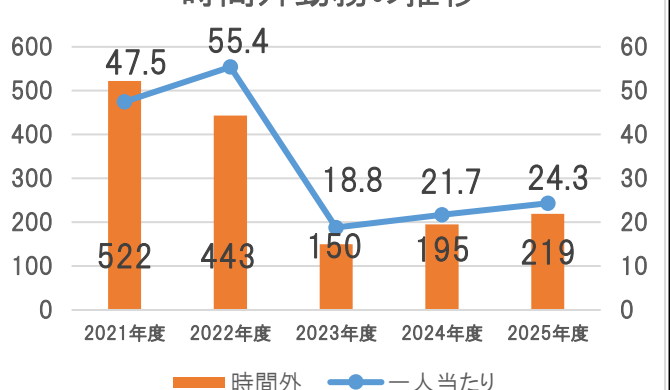


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
生涯学習審議会事務	0.2			0.2		0.2	0.5
生涯学習総務課管理事務	5.2			0.2		5.4	5.6
文化財保護事務	3.8			1.1		4.9	4.5
考古資料室管理事務	0.4			0.4		0.8	0.4
						0.0	0.0
2025年度 歳出目 合計	9.6	0.0	0.0	1.7	0.0	11.3	11.0
2024年度 歳出目 合計	10.0	0.0	0.0	1.0	0.0	11.0	

時間外勤務の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆南多摩5市(町田市、八王子市、多摩市、稲城市、日野市)の社会教育委員等を対象に、町田市の生涯学習に係る取組をテーマとした研修会を11月に実施し、32名の方に参加いただきました。実施後のアンケートでは93.3%の方から「参考になった」と回答がありました。◆夏休みの子ども向け考古資料室特別開室では、考古学について学ぶことのできるワークシートや土器片などに触れられるコーナーを設け、合計32名の来室があり、「土器や石器に触れたことで子どもの興味がより深まった」等の感想をいただき、子どもたちの「縄文のまちだ」への興味や地域の歴史への関心を高めることができました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆東京都指定史跡青木家屋敷オチャバ修繕への指定文化財修繕費補助金の交付に伴い、補助費等が1,049千円から1,914千円(+865千円)に増加しました。◆多くの市民等に町田の歴史について興味・関心を持っていただけるよう、新規登録文化財「成瀬の天狗型道祖神(3基)」を紹介するパネル展や市庁舎1階イベントスペースにて実施した企画展「手仕事の技ー小野路のメカイ作り再発見ー」展、「まちの歴史、さがしてみましたーまちさが考古学講座ーvol.2」の開催、「Future Park Lab 2026 Spring」への出展、SNSでの情報発信等、2024年度に引き続き、文化財の普及・活用事業に注力しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「学校開放事業」について、地域活用型学校の実現に向けた制度の見直しを進める必要があります。◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。◆考古資料室の維持管理にかかるコストが増加しているため、省エネ化等、コスト削減のための取組を進める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆多くの方に学校施設を利用いただけるよう、予約システム等の試行内容を検証した上で他の学校への導入拡大を進めます。◆町田デジタルミュージアムの操作性向上や更なる用途拡大に向けて、トップ画面の構成の変更を検討・実施します。	◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震・補強事業を着実に実施します。◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
特定事業名	文化財保護事業			事業類型	4:その他型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の歴史資源(※)の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。 ※歴史資源とは…文化財に限らず、地域の歴史を伝える資料の総称				
------	--	--	--	--	--

基本情報	根拠法令等	文化財保護法			
		2023年度	2024年度	2025年度	国指定文化財件数
	旧永井家住宅耐震補強・修繕事業進捗状況	-	-	耐震基礎診断完了	東京都指定文化財件数
	町田デジタルミュージアム進捗状況	利用促進	更新検討	コンテンツ追加	町田市指定・登録文化財件数
					埋蔵文化財包蔵地数
					2件
					16件
					59件
					913ヶ所

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。
- ◆整備が完了した高ヶ坂石器時代遺跡をはじめとする市内遺跡・文化財の効果的な活用を図る必要があります。
- ◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。
- ◆民有の指定文化財について、経年劣化に伴う修繕に要する費用の補助等、適切な維持管理のための支援を継続的に行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆町田デジタルミュージアムをより幅広い世代に利用していただけるよう、公開内容を更新します。◆整備が完了した国指定史跡高ヶ坂石器時代遺跡をはじめとする市内の遺跡を活用したイベントを実施します。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を実施します。◆まちだの歴史資源の見どころや講座・イベントを、市内外に広くPRする手法を検討し、実施します。		◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震事業を着実に実施します。◆民有の指定文化財について、必要な修繕等の対応ができるよう支援します。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。	
取組状況	個別取組	○町田デジタルミュージアムに動画を閲覧できるコンテンツを新設し、歴史や文化財について学ぶことが出来る動画の公開を開始しました。	
	○	○国重要文化財旧永井家住宅の耐震補強・修繕の実施にむけて、耐震基礎診断を完了しました。	
	○	○新たなPRの手段として、4月にInstagramアカウントを開設し、計140回の情報発信を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
文化財整備事業進捗状況	-	目標	牢場遺跡整備	八幡平遺跡整備	耐震基礎診断実施	補強計画案策定	補強等工事完了	～2024年度は高ヶ坂石器時代遺跡、2025年度～は旧永井家住宅
		実績	整備完了	整備完了	実施完了	策定完了	(2030年度)	
町田デジタルミュージアムアクセス数	件	目標	120,000	150,000	190,000	270,000	270,000	町田デジタルミュージアムのアクセス数
		実績	141,081	186,016	261,377	-	(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆2024年度に整備が完了した高ヶ坂石器時代遺跡の発見100周年を記念した講演会「敷石住居址研究の100年」を開催しました。57名の方にご参加いただき、アンケートでは88%の方から満足・大変満足との回答をいただきました。◆国指定重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断を完了し、耐震補強・修繕事業の進め方について、文化庁や東京都、事業者との調整を進めました。◆自由民権資料館や考古資料室等の展示キャプションへの二次元コードの掲載や遺跡マップ、出張授業等でのPRにより、町田デジタルミュージアムのアクセス数は261,377件で、2024年度と比較して40.5%増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	40,667	36,367	38,941	2,574	地方税	0	0	0	0
物件費	12,088	20,896	29,712	8,816	国庫支出金	8,932	5,535	6,929	1,394
うち委託料	11,604	20,314	28,923	8,609	都支出金	5,109	7,209	3,484	△ 3,725
維持補修費	15,992	12,938	716	△ 12,222	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	463	470	437	△ 33
補助費等	24,889	1,049	1,914	865	その他	172	269	177	△ 92
減価償却費	4,371	6,881	6,881	0	行政収入 小計(a)	14,676	13,483	11,027	△ 2,456
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 89,779	△ 68,292	△ 74,028	△ 5,736
賞与・退職手当引当金繰入額	6,448	3,644	6,891	3,247	金融収支差額(d)	△ 149	△ 132	△ 116	16
行政費用 小計(b)	104,455	81,775	85,055	3,280	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 89,928	△ 68,424	△ 74,144	△ 5,720
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	2,039	0	△ 2,039
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	2,039	0	△ 2,039	当期収支差額(e)+(h)	△ 89,928	△ 66,385	△ 74,144	△ 7,759

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	旧永井家住宅耐震診断業務委託 11,418千円 本町田遺跡公園管理業務委託 3,195千円 埋蔵文化財調査委託 2,449千円 など	旧永井家住宅・旧荻野家住宅・村野常右衛門生家自動火災報知設備受信機修繕 651千円 本町田遺跡公園多目的トイレ警報ランプ修繕 65千円
主な増減理由	旧永井家住宅耐震診断業務委託料が11,418千円皆増。 高ヶ坂石器時代遺跡整備事業完了報告書作成業務委託料が3,982千円皆減。	本町田遺跡公園縄文住居周壁修繕完了により、市有文化財の修繕料が8,844千円減少。 高ヶ坂石器時代遺跡整備完了に伴い、工事請負費が3,740千円皆減。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	町田市文化財保護事業費補助金 1,025千円 町田市指定文化財管理公開謝礼 515千円 町田市指定無形民俗文化財保護育成補助金 334千円 など	国宝重要文化財等防災施設整備費補助金(旧永井家住宅防災施設整備事業) 5,722千円 など
主な増減理由	都指定史跡青木家屋敷のオチャバ修繕の実施により、町田市文化財保護事業費補助金が825千円増加。	高ヶ坂石器時代遺跡整備完了等に伴い、国宝重要文化財保存・活用事業費補助金が4,328千円皆減。旧永井家住宅の耐震基礎診断に対する国宝重要文化財等防災施設整備費補助金が5,722千円皆増。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
		2025				
		2024				
		2023				
		2025				
		2024				
		2023				

④貸借対照表

(単位:千円)

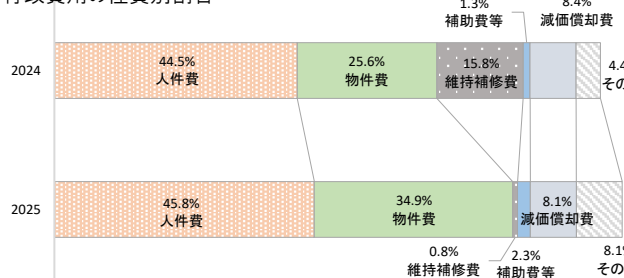
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		9,389	9,615	226			
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金		0	0	0		
	その他の流動資産		0	0	0		地方債		5,745	5,761	16		
固定資産	事業用資産	有形固定資産		987,237	980,365	△ 6,872	賞与引当金		3,644	3,854	210		
		土地		899,398	899,398	0	その他の流動負債		0	0	0		
		建物(取得価額)		262,974	262,974	0	固定負債		56,084	51,324	△ 4,760		
		建物減価償却累計額	△ 175,135	△ 182,007	△ 6,872	地方債		24,823	19,062	△ 5,761			
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金		31,261	32,262	1,001		
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債		0	0	0		
	無形固定資産		71	62	△ 9	負債の部合計		65,473	60,939	△ 4,534			
	インフラ資産	有形固定資産		0	0	0	純資産		921,835	919,488	△ 2,347		
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
工作物減価償却累計額			0	0	0								
無形固定資産			0	0	0								
建設仮勘定			0	0	0								
その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計		921,835	919,488	△ 2,347				
資産の部合計				987,308	980,427	△ 6,881	負債及び純資産の部合計				987,308	980,427	△ 6,881

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	無形固定資産(事業用資産)
決算額の主な内訳	本町田遺跡公園 245,664千円 田端遺跡 220,285千円 など	村野常右衛門生家 141,778千円 本町田遺跡公園 多目的施設 31,112千円 など	商標権(まっくう) 62千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、6,872千円減少。	減価償却により、9千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

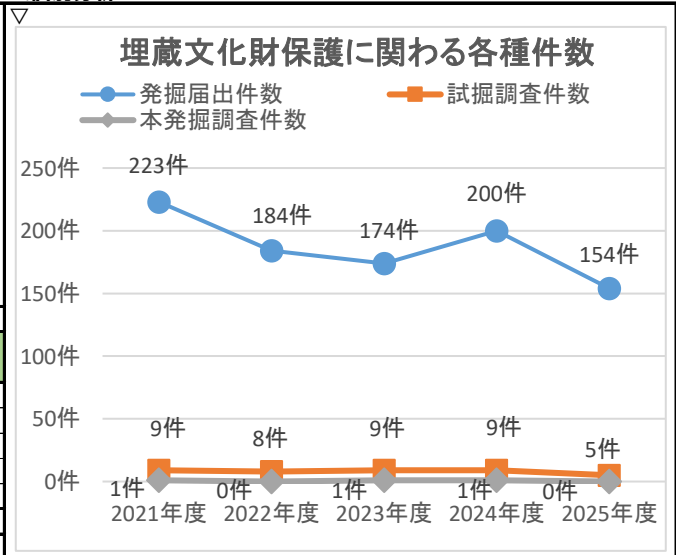


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	文化財保護審議会事務局事務	0.1					0.1	0.2
	文化財保護事務	0.6					0.6	0.6
	文化財整備保存事業	1.2					1.2	1.1
	埋蔵文化財保護事業	0.8			0.6		1.4	1.1
	文化財普及事業	1.1			0.5		1.6	1.6
	2025年度 特定事業 合計	3.8	0.0	0.0	1.1	0.0	4.9	4.6
2024年度 特定事業 合計		3.9	0.0	0.0	0.7	0.0	4.6	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆新たなPRの手段として2025年4月に開設したInstagramアカウント「まちだ縄文キャラクターまっくう(町田市公式)」で、イベントや町田市の文化財の紹介等について、計140回の発信を行い、閲覧数の月平均は9,300件を超え、多くの方に情報を届けることができました。◆まっくうグッズは、自由民権資料館や考古資料室の特別開室にて販売を実施したほか、Instagramをフォローいただいた方等への配布にも活用し、町田の歴史資源のPR促進につながりました。◆2025年度に作成した「縄文のまちだ」や企画展で放映した「小野路のメカイ制作技術」を含む歴史や文化財に関連する動画10本を閲覧できるコンテンツを町田デジタルミュージアムに新設しました。従来YouTubeのみで公開していた動画を集約し、小・中学校の授業等でも活用できる環境を整えました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆東京都指定史跡青木家屋敷オチャバ修繕への指定文化財修繕費補助金の交付に伴い、補助費等が1,049千円から1,914千円(+865千円)に増加しました。◆2025年度の市有文化財の修繕は比較的軽微なもののみであったため、維持補修費は12,938千円から716千円(△12,222千円)に減少しました。◆多くの市民等に町田の歴史について興味・関心を持っていたり、新規登録文化財「成瀬の天狗型道祖神(3基)」を紹介するパネル展や市庁舎1階イベントスペースにて実施した企画展「手仕事の技ー小野路のメカイ作り再発見ー」展、「まちの歴史、さがしてみました 〜まちさが考古学講座〜 vol.2」の開催、「Future Park Lab 2026 Spring」への出展、SNSでの情報発信等、2024年度に引き続き、文化財の普及・活用事業に注力しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆町田デジタルミュージアムについて、より幅広い世代の学習・研究ツールとして効果的に利用していただけるよう、内容の充実を図る必要があります。
- ◆市が所有する歴史資源について、計画的な修繕や、適切な維持管理を行いながら、それらに触れる機会の提供や情報発信を行う必要があります。
- ◆時間や場所を選ばずに町田の歴史に触れられ、多くの方に見ていただけるコンテンツを作成する必要があります。
- ◆民有の指定文化財について、経年劣化に伴う修繕に要する費用の補助等、適切な維持管理のための支援を継続的に行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田デジタルミュージアムの操作性向上や更なる用途拡大に向けて、トップ画面の構成の変更を検討・実施します。◆Instagramや各種グッズを活用しながら、多くの方に興味を持っていただけるよう、効果的な情報発信を行います。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震基礎診断の結果に基づき、耐震補強計画を策定します。	◆町田デジタルミュージアムについて、内容の充実や利便性の向上を図るため、計画的に更新していきます。◆国重要文化財旧永井家住宅の耐震・補強事業を着実に実施します。◆民有の指定文化財について、必要な修繕等の対応ができるよう支援します。◆遺跡や古民家等、市が所有する歴史資源の整備や修繕を計画的に検討し、順次実施します。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
特定事業名	考古資料室事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。				
------	--	--	--	--	--

基本情報	根拠法令等				施設の名称	町田市考古資料室		
	考古資料室見学者数	2023年度	2024年度	2025年度	建設年月日	1991年3月19日		
	収蔵資料のアウトリーチ実施件数	686	480	541		2023年度	2024年度	2025年度
		4	5	5				
					有形固定資産減価償却率	61.6%	63.4%	65.3%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆引き続き、考古資料室以外の会場でのイベント・企画の実施も積極的に行い、より多くの方に収蔵する考古資料を見学していただくためのPRが必要です。
◆施設の維持管理にかかるコストが増加しているため、省エネ化等、コストの削減を進める必要があります。◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)	中長期的な取り組み(3～5年)
◆アウトリーチ展示や出張歴史授業、地域のイベントと連動した特別開室等を通じて、収蔵する考古資料のPRを積極的に行います。 ◆照明のLED化による省エネ化を進めます。 ◆防草シートの敷設等により維持管理コストの削減を図ります。	◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。

取組状況	◎ 鶴川香山園での展示や相模原市との連携講座、さくらまつり開催と合わせての特別開室等、施設内外で考古資料を展示・紹介しました。
	○ 学芸員の仕事体験や、出張歴史授業で収蔵資料の実物を用いた解説など、子どもたちが「縄文のまちだ」に触れる機会を創出しました。
	○ 敷地内の草刈・樹木剪定にかかる費用の削減を図るため、敷地内への防草シート設置工事を実施しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	650	650	650	650	650	考古資料室年間見学者数
		実績	686	480	541	-	(2026年度)	
収蔵資料のアウトリーチ実施件数	件	目標	3	4	5	5	5	考古資料室以外で実施した収蔵資料を活用した事業の件数
		実績	4	5	5	-	(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆学芸員が1日入室し、触れる土器や石器のコーナーの設置やグッズの販売等を実施する特別開室を7月・8月・11月・3月の計4回実施したことにより、2025年度の考古資料室の見学者数は2024年度と比較して12.7%増加しました。◆2025年にオープンした鶴川香山園にて、周辺地域の遺跡から出土した収蔵資料のアウトリーチ展示を実施したほか、東京都埋蔵文化財センター企画展への資料の貸出や、まち歴史講座「親子でお仕事体験 学芸員になってみよう」、小学校等での出張歴史授業などで収蔵資料の実物を持参し解説するなど、市内外の方に町田の考古資料をご覧いただくことができました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	5,981	3,077	5,122	2,045	地方税	0	0	0	0
物件費	2,472	2,512	2,526	14	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,857	1,980	1,988	8	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	4,271	204	1,481	1,277	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,967	2,706	2,706	0	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 16,406	△ 8,818	△ 13,429	△ 4,611
賞与・退職手当引当金繰入額	715	319	1,594	1,275	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	16,406	8,818	13,429	4,611	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 16,406	△ 8,818	△ 13,429	△ 4,611
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	2,390	0	△ 2,390
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	2,390	0	△ 2,390	当期収支差額 (e)+(h)	△ 16,406	△ 6,428	△ 13,429	△ 7,001

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	維持補修費
決算額の主な内訳	人件費 5,122千円	防草シート設置工事 1,239千円 土間修繕 242千円
主な増減理由	特別開室の実施回数の増加や施設の維持補修にかかる事務の増加などにより、2,045千円増加。	防草シート設置工事の実施などにより、1,277千円増加。

勘定科目	物件費	
決算額の主な内訳	除草・低木剪定業務委託 760千円 施設管理業務委託 743千円 光熱水費 491千円	特になし
主な増減理由	施設管理や除草・低木剪定業務等の委託料が127千円増加。 特別開室の実施回数の増加等により、光熱水費が7千円増加。 遮光カーテン製作業務委託の完了により、委託料が74千円減少。	

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
見学者1人あたりコスト	人	2025	541	24,823	6,452	特別開室を4回実施し、2024年度と比較し見学者数は61人(12.7%)増加しましたが、人件費や維持補修費等、行政費用も4,611千円増加したため、見学者1人あたりのコストは6,452円(35.1%)増加し、24,823円となりました。
		2024	480	18,371	△ 5,544	
		2023	686	23,915	△ 3,257	
		2025				
		2024				
		2023				

④貸借対照表

(単位:千円)

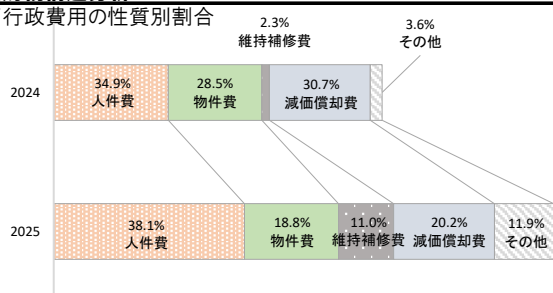
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	319	476	157	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	106,040	103,333	△ 2,707	賞与引当金	319	476	157
		土地	54,688	54,688	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	141,200	141,200	0	固定負債	2,508	3,411	903
		建物減価償却累計額	△ 89,848	△ 92,555	△ 2,707	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	2,508	3,411	903
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	2,827	3,887	1,060
		有形固定資産	0	0	0	純資産	105,013	101,246	△ 3,767
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産		1,800	1,800	0	純資産の部合計	105,013	101,246	△ 3,767	
資産の部合計		107,840	105,133	△ 2,707	負債及び純資産の部合計	107,840	105,133	△ 2,707	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	考古資料室 141,200千円	須恵器横瓶 1,800千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、2,707千円減少。	増減なし

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



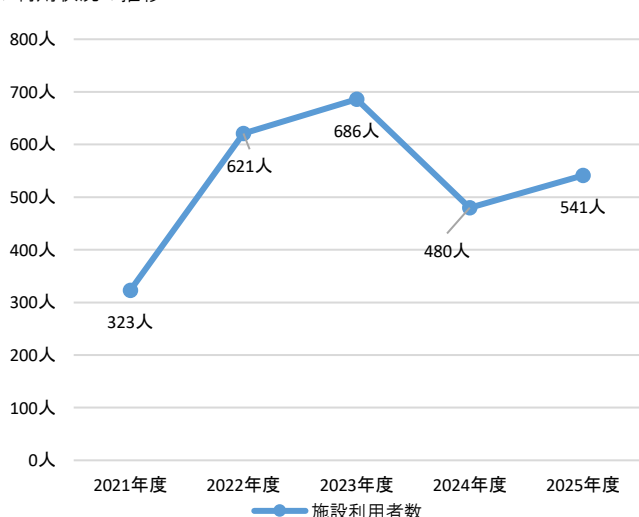
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
考古資料室管理事務	0.4			0.4		0.8	0.4
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.8	0.4
2024年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆夏休みの子ども向け特別開室では、子ども向けのワークシートや土器片などに触れられるコーナーを設け、合計32名の来室があり、「土器や石器にさわったことで子どもの興味がより深まった」「町田の歴史をもっとたくさん知りたいと思った」等の感想をいただき、子どもたちの「縄文のまちだ」への興味や地域の歴史への関心を高めることができました。◆「町田の歴史を知る」や「縄文時代を知る」の出張歴史授業の際には収蔵資料の土器や石器を持参し、子どもたちに実際に触れてもらうことで、当時の暮らしへの理解を深めました。◆特別開室の実施時には、まっくろグッズや関連書籍の販売、Instagramをフォローした方へのまっくろステッカーの配布を行い、グッズの売り上げは合計13,400円、ステッカーの配布は24枚の実績がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2024年度は1回のみの実施であった特別開室を2025年度は4回実施したことや、施設の維持補修にかかる事務の増加などにより、考古資料室管理事務に係る人員は2024年度と比較して、0.4人から0.8人(+0.4人)に増加しました。◆物件費は、除草及び低木剪定業務や施設管理業務の委託料、電気料金の上昇に伴い、2,512千円から2,526千円(+14千円)に増加しました。◆毎年の草刈や樹木剪定のコスト削減に向けて、防草シートの設置工事を実施したため、維持補修費が2024年度と比較して、204千円から1,481千円(+1,277千円)に増加しましたが、次年度以降の除草及び低木剪定業務委託料は減少する見込みです。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆引き続き、考古資料室以外の会場でのイベント・企画を積極的に行うなど、より多くの方に収蔵する考古資料を見学していただくためのPRが必要です。◆施設の維持管理にかかるコストが増加しているため、省エネ化等、コスト削減のための取組を進める必要があります。◆考古資料室に併設しているプレハブ収蔵庫は築40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、最適な収蔵環境の整備についての検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆アウトリーチ展示や出張歴史授業、特別開室等のイベントを通じて、収蔵する考古資料のPRを積極的に行います。 ◆維持管理コストの削減に効果的な取組を検討します。	◆考古資料を後世に引き継ぐことができるよう、最適な収蔵環境の整備に向けた検討を行います。

2025年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
事業類型	e:事業型(施設運営)				

1.組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集、保管し、調査、研究の成果で展示などをおこない、町田市の郷土資料館として、自由民権運動と町田の歴史について市民の理解を深めます。	取扱い 自 治 体 等 の	◆「自由民権運動」を冠する公立博物館は、全国で高知市立自由民権記念館、福島県三春町自由民権記念館及び当館の3館のみです。
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管、展示、閲覧、調査、研究及び、図書の刊行。普及事業の講座、各種イベントの開催に関すること。		

基本情報	根拠法令等	2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立自由民権資料館
	開館日数	307	289	295	建設年月日	1986年3月31日
	特別展・企画展開催回数	2	2	1		2023年度 2024年度 2025年度
	講座実施回数	79	73	68	有形固定資産減価償却率	45.3% 47.3% 49.3%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆いつでもどこでも町田の歴史に触れられるよう企画展のデジタル化等、デジタルコンテンツを充実させる必要があります。◆重要史料群の整理に伴い明らかになった町田の歴史を市民の皆さんに見ていただけるよう、企画展等で活用していく必要があります。◆学校統合に伴い、小・中学校保管の歴史的な資料の現状記録、整理、評価などを行い、引き継ぐ必要があります。◆大切な資料を守るため、展示室及び収蔵庫の環境が適切に維持できるよう管理を継続する必要があります。また、空調設備の省エネルギー性能の高い設備への更新が求められています。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆町田の歴史を学ぶ機会を充実させるため、デジタルコンテンツの作成を進めるとともに、重要史料群として整理を進めている町田の歴史史料を企画展等で活用します。◆市内外問わず、多くの方が参加しやすい会場で、まちの歴史資源を活用した新たな講座や展示を実施します。		◆資料の展示、収蔵環境を適切に維持するため、総合的有害生物管理(IPM)の方法を検証しながら実施します。◆小・中学校に保管の歴史的な資料の現状記録、整理、評価などを継続して行います。◆施設の適切な管理、維持をおこなう為、関係部署と協議しながら修繕・工事計画を検討します。	
取組状況	◎個別取組	○出張歴史授業は、プログラムを見直し新たなコースを新設し、2025年度は37回実施しました。	
		◎まち歴講座の講演録2件をデジタル化し、町田の歴史をいつでも学べるようコンテンツの充実を図りました。	
		◎企画展「町田とお殿さま」は、多くの方に興味を持っていただき、例年の2倍の来館者がありました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 利用者数	人	目標	7,000	7,200	7,200	7,200	7,200	年間の自由民権資料館来館者数及びまち歴史講座等参加者数
		実績	7,932	6,832	8,650		(2026年度)	
重要史料群の整理率	%	目標	55.0	62.5	70.0	77.5	100	歴史資料約15万件中、重要史料群約5万3千件の整理率
		実績	55.0	62.5	70.2		(2029年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆企画展「町田とお殿さま」を開催しました。開催期間中の来館者数は例年の約1,000人に比べ2倍の約2,000人となり、多くの方に観覧いただくことができました。また、「出張歴史授業」や「まち歴史講座」等の歴史資料を活用した講座を62回開催したことなどにより、自由民権資料館年間利用者数は2024年度と比較して1,818人増加し8,650人になりました。◆重要史料群の整理率は70.2%となり目標を達成しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
人件費	44,567	44,322	45,163	841	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	118	413	288	△ 125	保険料	0	0	0	0
物件費	13,290	20,861	18,893	△ 1,968	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,505	14,340	11,629	△ 2,711	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	876	1,324	7,897	6,573	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	932	668	673	5	その他	504	470	559	89
減価償却費	9,970	10,210	10,210	0	行政収入 小計(a)	504	470	559	89
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 75,687	△ 83,152	△ 89,148	△ 5,996
賞与・退職手当引当金繰入額	6,556	6,237	6,871	634	金融収支差額 (d)	0	△ 79	△ 74	5
行政費用 小計 (b)	76,191	83,622	89,707	6,085	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 75,687	△ 83,231	△ 89,222	△ 5,991
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 75,687	△ 83,231	△ 89,222	△ 5,991

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合的有害生物管理(IPM)業務委託 3,795千円 自由民権資料館総合管理業務委託 2,726千円 民権の森史料管理業務委託 1616千円など	空調設備交換工事 7,090千円 防犯カメラシステム交換修繕 396千円 フロア修繕 352千円 など
主な増減理由	自由民権資料館及び三輪の森ビジターセンターの展示室と収蔵庫の環境維持のための総合的有害生物管理(IPM)業務委託の委託内容の見直しなどにより、1,968千円減少。	自由民権資料館の史料調査室、展示室1、事務室、休憩室等の空調設備の交換修繕、防犯カメラシステム交換修繕や浄化槽の曝気フロア修繕の実施などにより、6,573千円増加。
勘定科目	補助費等	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	史料調査員謝礼 3,485千円 まち歴・古文書講座講師謝礼 289千円 まち歴フィールドワーク等傷害保険料 3千円 など	図書等販売代 305千円 講座等参加費 242千円 コピー機使用料 13千円 など
主な増減理由	史料調査作業(浪江文庫関係)を着実に進めたことなどにより、5千円増加。	企画展ガイドブックの販売数が増加したことに伴う図書等販売代の増加などにより、89千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2025	8,650	10,371	△ 1,869	企画展「町田とお殿さま」や、市庁舎イベントスタジオで開催した「手仕事の技-小野路のメカイ再発見-」展に多くの入場者があったことなどにより、2024年度と比較して利用者1人あたりのコストが1,869円減少しました。
		2024	6,832	12,240	2,634	
		2023	7,932	9,606	△ 3,662	
		2025				
		2024				
		2023				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A		
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				9,393	9,388	△ 5		
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0		
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			4,912	4,916	4		
固定資産	事業用資産	有形固定資産			602,391	592,341	△ 10,050	固定負債	賞与引当金			4,481	4,472	△ 9	
		土地	334,577			334,577	0		その他の流動負債			0	0	0	
			建物(取得価額)			502,479	502,479		0	負債の部合計			95,129	90,933	△ 4,196
			建物減価償却累計額			△ 234,665	△ 244,715		△ 10,050	地方債			69,280	64,364	△ 4,916
			工作物(取得価額)			0	0		0	退職手当引当金			25,849	26,569	720
			工作物減価償却累計額			0	0		0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	純資産			498,030	492,020	△ 6,010		
		有形固定資産	0			0	0								
			土地	0			0							0	
				工作物(取得価額)			0							0	0
				工作物減価償却累計額			0							0	0
無形固定資産			0	0	0										
建設仮勘定			0	0	0										
その他の固定資産			161	0	△ 161	純資産の部合計			498,030	492,020	△ 6,010				
資産の部合計				602,552	592,341	△ 10,211	負債及び純資産の部合計				602,552	592,341	△ 10,211		

⑤貸借対照表の特徴的事項

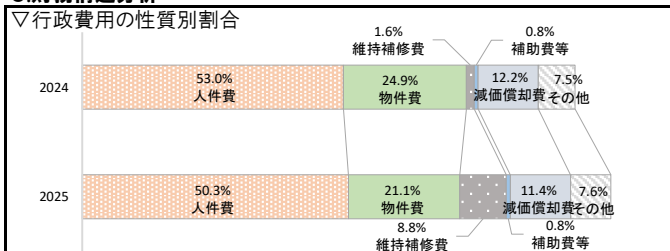
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	自由民権資料館 502,479千円	平型覗きガラスケース 0千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、10,050千円減少。	減価償却により、161千円皆減。

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	559	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	78,859	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	4,912
行政サービス活動収支差額(a)	△ 78,300	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 4,912
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 83,212
				一般財源充当調整額	83,212

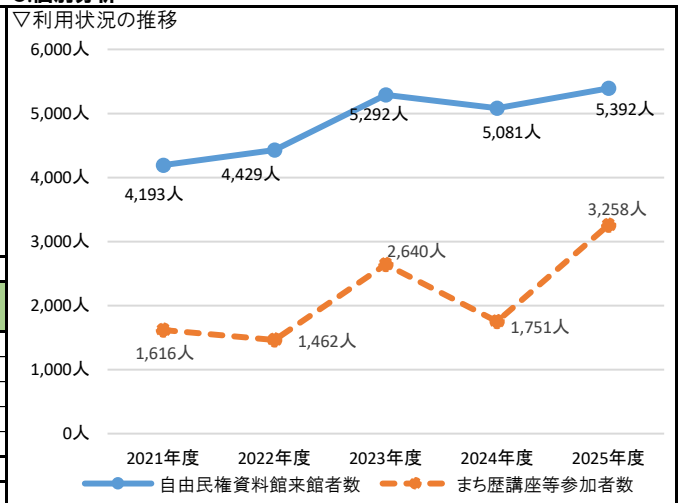
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	資料館管理事務	1.5			0.5	0.2	2.2	1.9
	資料保管事務	0.3			1.3	0.7	2.3	2.3
	展示事務	0.4			0.8		1.2	1.4
	図書刊行	0.1			0.6		0.7	0.8
	普及事務	0.7			0.6		1.3	1.4
2025年度 歳出目 合計		3.0	0.0	0.0	3.8	0.9	7.7	7.8
2024年度 歳出目 合計		3.0	0.0	0.0	3.9	0.9	7.8	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆企画展「町田とお殿さま」が好評であったことから、開催期間中の来館者数は例年の約1,000人の来場者に比べ2倍の約2,000人の来場となりました。また、企画展開連事業として、関係史跡を巡る「フィールドワーク」を2回、国際版画美術館を会場とした「まち歴史講座」を2回、担当学芸員による展示解説を6回、小・中学生向けの特製缶バッジづくりを4回実施した他、企画展開連図書コーナーを設置するなど、町田の歴史に興味を持っていただくための機会を数多く提供することが出来ました。これらの取組により、自由民権資料館年間利用者数は2024年度と比較して1,818人増加し8,650人になりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆自由民権資料館内の空調設備の交換及び空調運用方法の見直しの他、自由民権資料館及び三輪の森ビジターセンターの収蔵庫と展示室の総合的有害生物管理(IPM)業務委託内容の見直しなどにより、物件費が1,968千円減少しました。◆2024年度は企画展の他にミニ企画展を1回開催しましたが、2025年度はより市民が興味・関心を持つテーマでの充実した企画展のみを開催することで、事務の効率化を図りました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆いつでもどこでも町田の歴史に触れられるよう企画展のデジタル化等、デジタルコンテンツを充実させる必要があります。◆重要史料群の整理に伴い明らかになった町田の歴史を市民の皆様に見ていただけるよう、企画展等で活用するとともに、将来的な新たな町田市史の編纂に備えた検討をしていく必要があります。◆大切な資料を守るため、適切な保存環境を維持することができるよう、引き続き展示室や収蔵庫の管理を実施する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆町田の歴史を学ぶ機会を充実させるため、デジタルコンテンツの作成を進めるとともに、重要史料群として整理を進めている歴史資料を企画展等で活用します。◆市内外問わず、多くの方が参加しやすい会場で、歴史資源を活用した新たな講座や展示を実施します。	◆展示室や収蔵庫の環境を適切に維持するため、総合的有害生物管理(IPM)の効果等を検証しながら実施します。◆施設の適切な管理、維持を行うため、関係部署と協議しながら修繕・工事計画を検討します。

2025年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
			事業類型	a:施設所管型	

1.組織概要

組織の使命	学びに出会う機会と、学習成果をいかす機会を提供するための中核施設を担います。	他自治体の取り組み等	◆町田第一中学校では、図書室を学習スペースとして個人向けに開放する「ここまちベース」を行っています。「ここまちベース」では、地域の学生が学習支援員として常駐し、多世代の利用者に対し学習相談に応じています。このように、図書室を活用して、世代を問わず学習支援を行っている事例は、都内他市町村にはありません。
所管事務	◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る活動支援、団体及び関係機関との連絡及び総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供、相談業務に関すること ◆生涯学習センターの施設、設備管理並びに市民への利用提供に関すること		

2.2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、引き続き事業及び管理運営体制の見直しを進める必要があります。
◆効果的・効率的な施設運営に向け、窓口業務の委託化など、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。
◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進や、より多くの市民が学習情報を得やすい環境整備をする必要があります。
◆市民が生涯学習センターで学習活動を再開できるよう、計画的な広報周知を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆施設改修後の利用増加に向け、広報周知活動を行います。	取組状況 ○	◆「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業運営及び管理運営体制の見直しを進めます。	◆見直しを行ったものから、新たな事業運営及び管理運営体制での運用を開始します。
◆2026年度民間活力の導入に向けた準備を進めます。			
◆講座のデジタル化及び市内の公共施設等での講座開催を推進します。			
個別取組	○	2026年4月の生涯学習センター総合窓口業務等業務の委託に向けて、導入準備を行いました。	
	○	ソーシャルメディアを活用し、市民大学講座など7講座をオンデマンド配信等により実施しました。	
	○	利用者増加に向けて広報まちだ等でアピールした結果、再開館後に多くの市民が来館しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの施設利用率	%	目標	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	主催事業、施設貸出等で生涯学習センターを利用した割合(新型コロナワクチン接種による利用を除く)
		実績	60.5	59.3	53.0		(2028年度)	
学習成果を今後、いかせると答えた人の割合	%	目標	86.0	88.0	89.0	89.0	89.0	講座実施後に行うアンケートの回答で得られた割合
		実績	88.0	91.8	90.0		(2026年度)	
デジタル化した講座の割合	%	目標	-	4.0	5.0	7.0	10.0	主催講座に対する、デジタル化した講座の割合
		実績	-	4.0	6.7		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆改修工事に伴う休館が2024年10月から2025年12月まで続き、生涯学習センターをホームグラウンドとしていた団体が他施設を利用したため、施設利用率は53.0%に留まりました。◆家庭教育支援事業や市民大学、デジタルデバйд事業等の受講者アンケート結果で「学習成果を今後、いかせると答えた人の割合は90.0%となり、2024年度より1.8ポイント減少していますが、目標値を上回る高い数値を維持しています。◆2025年度に実施した市民大学の公開講座などの主催講座のうち、デジタル配信やアーカイブ化した講座の割合は6.7%でした。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	156,031	167,346	171,466	4,120	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	7,047	8,940	6,547	△ 2,393	保険料	0	0	0	0
	物件費	58,286	52,448	39,681	△ 12,767	国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	34,040	26,233	18,311	△ 7,922	都支出金	16,417	13,487	3,195	△ 10,292
	維持補修費	1,077	707	2,170	1,463	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	9,248	5,438	2,710	△ 2,728
	補助費等	56,951	54,238	54,576	338	その他	1,827	672	1,276	604
	減価償却費	18,109	18,109	18,109	0	行政収入 小計(a)	27,492	19,597	7,181	△ 12,416
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 294,300	△ 302,810	△ 311,487	△ 8,677
	賞与・退職手当引当金繰入額	31,338	29,559	32,666	3,107	金融収支差額 (d)	0	△ 43	△ 946	△ 903
	行政費用 小計 (b)	321,792	322,407	318,668	△ 3,739	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 294,300	△ 302,853	△ 312,433	△ 9,580
	特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 294,300	△ 302,853	△ 312,433	△ 9,580

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	都支支出金
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 12,186千円 町田第一中学校学習支援事業等業務委託 11,603千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 3,881千円 デジタルデバйд対応促進事業業務委託 909千円 など	障がい者施策推進包括補助事業費補助 1,762千円 家庭教育支援基盤形成事業費補助 909千円 高齢者QOL向上のためのデジタル活用支援事業費補助 454千円 人生100年時代セカンドライフ応援事業費補助 70千円
主な増減理由	施設貸出・管理業務委託や各種保守点検など委託料が7,922千円減少、及び光熱水費が改修工事による休館に伴い4,696千円減少。	子ども・長寿・居場所包括補助事業費補助金の補助対象期間満了に伴い、10,000千円皆減、及び障がい者施策推進包括補助事業費補助金が休館による対象事業実施回数減に伴い507千円減少。
勘定科目	補助費等	使用料及手数料
決算額の主な内訳	町田センタービル管理費負担金 46,841千円 障がい者青年学級担当謝礼 2,855千円 講師謝礼 2,217千円 さがまちコンソーシアム年会費 1,000千円 など	生涯学習センター施設使用料 1,925千円 町田第一中学校施設使用料 671千円 生涯学習センター附属設備使用料 92千円 生涯学習センター自動販売機行政財産使用料 22千円
主な増減理由	入居する町田センタービル内のシャッター修繕を行ったため、設備修繕負担金が377千円増加。	改修工事による生涯学習センター休館に伴い、施設使用料が2,774千円減少及び附属設備使用料が26千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	216	216	流動負債		17,228	19,519	2,291
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	778	2,028	1,250
固定資産	有形固定資産	2,134,371	2,646,222	511,851	賞与引当金		16,450	17,491	1,041
	土地	1,706,823	1,706,823	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	778,241	1,308,201	529,960	固定負債		268,291	477,176	208,885
	建物減価償却累計額	△ 350,693	△ 368,802	△ 18,109		地方債	144,333	346,306	201,973
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	123,958	130,870	6,912
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債		0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		負債の部合計	285,519	496,695	211,176
	インフラ資産	0	0	0	純資産		1,853,097	2,153,988	300,891
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0					
建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0	純資産の部合計		1,853,097	2,153,988	300,891
	無形固定資産	0	0	0					
	その他の固定資産	4,245	4,245	0					
資産の部合計		2,138,616	2,650,683	512,067	負債及び純資産の部合計		2,138,616	2,650,683	512,067

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有持分100万分の254,148)	生涯学習センター 1,308,201千円	出資金((株)町田センタービル) 2,985千円 重要物品 1,260千円
主な増減理由	増減なし	改修工事に伴う資産価値向上により、529,960千円増加。	増減なし

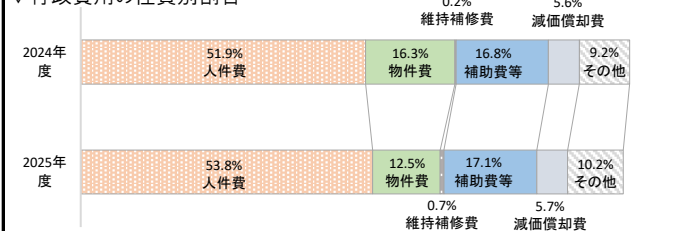
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	6,966	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	204,000
行政サービス活動支出	293,552	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	778
行政サービス活動収支差額(a)	△ 286,586	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	203,222
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 83,364
				一般財源充当調整額	83,364

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



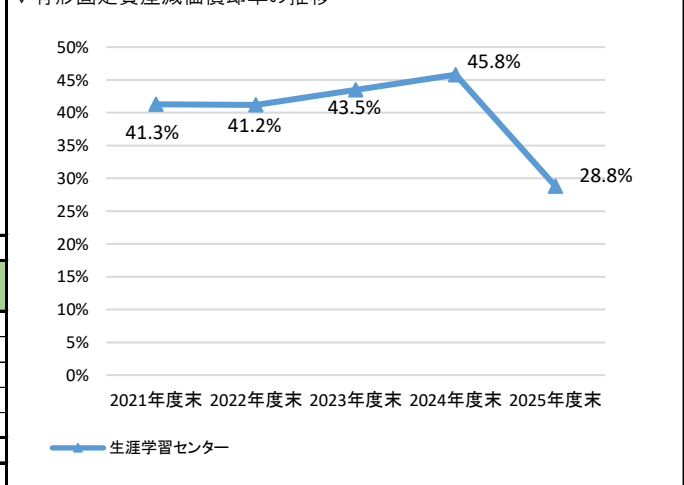
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	生涯学習センター管理事務	3.9			0.5		4.4	5.1
	生涯学習支援事業	2.0			1.0		3.0	2.9
	生涯学習講座事業	7.5			5.3	0.7	13.5	13.4
	施設管理	1.6			1.2		2.8	2.2
2025年度 歳出目 合計		15.0	0.0	0.0	8.0	0.7	23.7	23.6
2024年度 歳出目 合計		15.0	0.0	0.0	7.9	0.7	23.6	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆生涯学習センター施設貸出・管理業務を1月から(公社)相模原・町田大学地域コンソーシアムへ委託して窓口に大学生を一定数配置するなど、当該公益法人と協働で施設運営する手法を開始しました。◆講座実施後に行うアンケートで「学習成果を今後、いかせる」と答えた人の割合は、2024年度の91.8%から90.0%(△1.8ポイント)に減少しましたが、引き続き目標値を上回る高い数値を維持しています。この要因としては、デジタルデバйд解消事業等を各地域において実施して新規受講者の増加を図ったことにより、新たな学びの機会を創出できたことが挙げられます。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆生涯学習センターの改修工事によって内装や照明、空調などの設備が新しくなったことで、有形固定資産減価償却率は2024年度の45.8%から28.8%(△17.0ポイント)へと大幅に改善しました。◆施設休館の影響もあり、施設利用率が目標値70.0%に対して2025年度は53.0%でした。利用率は年々減少傾向にあり、利用者の内訳は70歳以上の方が6割を占めている一方、若者には認知度が低い状況です。◆学習意欲のある市民が時間や場所の制約なく学べるよう、実施講座のデジタル配信やアーカイブ化を実施しました。デジタル化した講座の割合は6.7%となり、目標を1.7%上回りました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆利用者増加に向け、若者世代向けの取り組みの強化、地域や時間の制約なく学べる環境づくり、学習相談におけるコンシェルジュ機能の強化の3点について重点的に取り組むため、民間活力の導入範囲を拡大する必要があります。◆生涯学習センターの学習相談機能を拡充していく必要があります。◆市民の学習機会を充実させるため、講座のデジタル化の推進、多くの市民が学習情報を得やすい環境整備、学習成果を活かす機会を提供をする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆施設貸出・管理業務に加え、2026年度から若者参画での企画事業や学習相談などを公益法人と協働して施設運営を行います。 ◆講座のデジタル化及び市内の公共施設等での講座開催を推進します。 ◆学習成果を活かす機会を提供していきます。	◆若者参画での新たな事業運営及び管理運営体制の拡充を検討していきます。 ◆学習相談の機会の拡充を検討していきます。

2025年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
			事業類型	a:施設所管型	

1.組織概要

組織の使命	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。	取組自治体の他	◆セルフ貸出などの非接触型のサービスを可能とするICタグを導入しているのは多摩26市中15市あります。町田市立図書館はこのシステムを2014年度のシステム更改から導入しています。 ◆マイナンバーカードを活用し、来館せずに利用者登録・更新を可能とする図書館システムを2025年3月に導入しました。これは多摩26市で初の取り組みです。
所管事務	◆図書館資料の収集、整理、閲覧、貸出しに関すること ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関すること ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関すること ◆読書普及を目的とした各種行事に関すること ◆移動図書館の運営に関すること及び図書館の維持管理に関すること ◆地域文庫等関係団体の育成援助、図書館活動に係わるボランティアの育成に関すること ◆町田市立図書館協議会に関すること		

2.2024年度末の総括と2025年度末の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です。◆非来館で登録・更新可能など新図書館システムの機能についてもPRを行い、新規利用者の増加に向けた取り組みが必要です。◆2025年度から始まるつるかわ図書コミュニティ施設運営団体の支援が必要です。◆若者から提案されたイベントの実現に向けたサポートが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	◎ 電子書籍サービスは、利用促進のためのPRIに取り組んだことにより、97,029点の貸出がありました。	◎ 「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。	
◎	◎ つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」は、年間103,548人が来館し、幅広い方に興味を持ってもらい、コミュニティ形成が進みました。		
◎	◎ 高校生・大学生を中心とした若者ボランティア(図書館プランナー)が企画運営したイベントを8件実施し、98人の参加がありました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	4,086,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む)(電子書籍は含まない)
		実績	3,029,503	2,748,586	2,701,261		(2026年度)	
蔵書回転率	回	目標	3.30	3.30	3.30	3.30	3.30	貸出点数を蔵書数で除したものの(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)(電子書籍は含まない)
		実績	2.49	2.27	2.25		(2026年度)	
来館者数	人	目標	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	2,100,000	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	1,746,412	1,811,192	1,438,010		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆鶴川図書館の閉館、堺市民センターの大規模改修による堺図書館の休館(2025年2~6月)などにより、貸出点数は2024年度よりも47,325点減少しました。来館者数も、閉館・休館に加えて、来館者を数える機器の入れ替えの影響等により373,182人減少しました。◆システム更改後、インターネット上で利用者登録・更新ができる機能等のPRを進めたことにより、新規利用登録者数は10,494人となりました。◆つるかわ図書コミュニティ施設「つるぼん」の運営を支援した結果、年間103,548人が来館し、幅広い方に興味を持ってもらい、コミュニティ形成が進みました。◆図書館プランナーが定期的に会議を開催し、「ビブリオバトル」等8件のイベントを企画・実施しました。◆図書館以外の予約資料受渡し施設での貸出数は、7施設で99,581点の貸出がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
人件費	715,716	791,444	742,897	△ 48,547	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	15,300	16,643	13,798	△ 2,845	保険料	0	0	0	0
物件費	399,918	522,674	447,769	△ 74,905	国庫支出金	1,290	30,450	4,039	△ 26,411
うち委託料	206,459	332,389	216,646	△ 115,743	都支支出金	15,069	15,606	63	△ 15,543
維持補修費	11,906	41,950	7,883	△ 34,067	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11	0	0	0
補助費等	54,451	54,815	70,495	15,680	その他	2,289	5,225	5,479	254
減価償却費	40,744	40,744	40,744	0	行政収入 小計(a)	18,659	51,281	9,581	△ 41,700
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,316,836	△ 1,520,810	△ 1,372,517	148,293
賞与・退職手当引当金繰入額	112,760	120,464	72,310	△ 48,154	金融収支差額(d)	0	0	0	△ 229
行政費用 小計(b)	1,335,495	1,572,091	1,382,098	△ 189,993	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,316,836	△ 1,520,810	△ 1,372,746	148,064
特別費用(g)	62,537	79,386	47,070	△ 32,316	特別収入(f)	1,301	12,165	30,847	18,682
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 61,236	△ 67,221	△ 16,223	50,998	当期収支差額(e)+(h)	△ 1,378,072	△ 1,588,031	△ 1,388,969	199,062

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度業務職員 385,871千円 常勤職員 294,200千円 再任用職員 38,822千円 会計年度補助職員 23,837千円 など	図書館システム使用料 172,734千円 鶴川駅前図書館指定管理委託料 114,298千円 中央図書館施設運営補助業務委託料 45,936千円 図書館書籍等配送業務委託料 6,725千円 など
主な増減理由	システム更改の終了や鶴川図書館閉館に伴う職員構成の変動により、48,547千円減少。	新図書館システム使用料や鶴川駅前図書館指定管理委託料などが増加した一方、新図書館システム導入委託料などが減少したことにより、74,905千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	木曽山崎図書館照明設備LED化改修工事 2,401千円 中央図書館レファレンス・マシン室照明器具交換修繕 798千円 さるびあ図書館非常照明修繕 742千円 中央図書館4階防犯カメラ修繕 330千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 4,039千円
主な増減理由	金森図書館照明改修工事のほか、鶴川駅前図書館空調室外機改修工事などが完了したことにより、34,067千円減少。	システム更改及び地域資料デジタル化で活用したデジタル田園都市国家構想交付金の皆減や、電気料金を対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の減少により、26,411千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			76,936	72,310	△ 4,626	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		854,120	814,307	△ 39,813	賞与引当金			76,936	72,310	△ 4,626	
		土地		343,044	343,044	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		1,644,891	1,644,891	0	固定負債			398,954	348,587	△ 50,367	
		建物減価償却累計額		△ 1,133,815	△ 1,173,628	△ 39,813	地方債			25,000	25,000	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			373,954	323,587	△ 50,367	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			475,890	420,897	△ 54,993	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			2,632,702	2,645,476	12,774	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0	0								
	無形固定資産		0	0	0								
	その他の固定資産		2,254,472	2,252,066	△ 2,406	純資産の部合計			2,632,702	2,645,476	12,774		
資産の部合計				3,108,592	3,066,373	△ 42,219	負債及び純資産の部合計				3,108,592	3,066,373	△ 42,219

④貸借対照表の特徴的事項

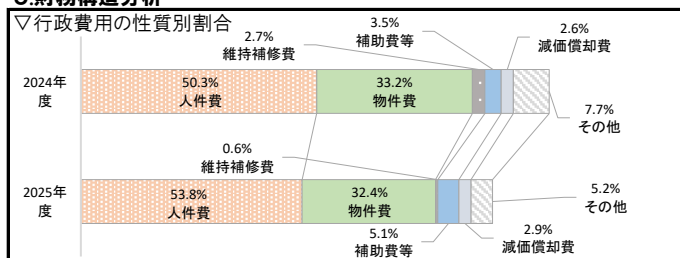
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,531千円	中央図書館 1,402,817千円 さるびあ図書館 130,612千円 木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 2,241,812千円 出資金(エルム・スリー管理(株)) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 3,654千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、39,813千円減少。	購入・寄贈 除籍などにより、図書資産が1,475千円減少。減価償却により、忠生図書館書架等備品が931千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

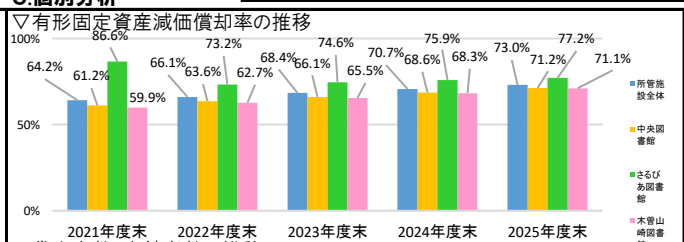
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	7,955	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,366,640	社会資本整備等投資活動支出	34,737	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,358,685	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 34,737	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,393,422
				一般財源充当調整額	1,393,422

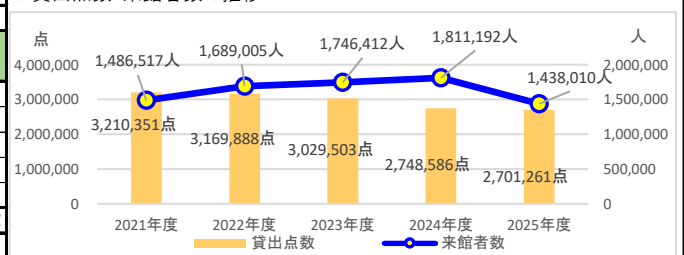
5.財務構造分析



6.個別分析



▽貸出点数・来館者数の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用(フルタイム)	再任用(短時間)	会計年度(業務)	会計年度(補助)	2025合計	2024合計
図書館管理事務	5.6	0.4	0.3	1.2	0.7	8.2	11.1
各館庶務事務	9.6	1.5	0.9	4.7	0.3	17.0	18.4
企画運営事務	12.3	0.5	0.2	5.1		18.1	17.8
資料貸出・閲覧業務	11.6	2.5	1.6	65.7	8.7	90.1	93.7
利用援助・普及事業	1.9	0.1		8.7		10.7	11.2
2025年度 歳出目 合計	41.0	5.0	3.0	85.4	9.7	144.1	152.2
2024年度 歳出目 合計	48.0	4.0	2.0	89.1	9.1	152.2	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆外国語の絵本・児童書を171点購入し、その蔵書数は約8,700点になり、貸出点数は799点増加し、17,124点となりました。◆図書館プランナーが定期的に会議を開催し、「ピブリオバトル」など8件のイベントを企画・実施しました。◆読み聞かせに関わる活動をしている保護者やボランティアを対象とした講座(絵本の読み聞かせ講座・基礎編18人参加、紙芝居講座26人参加、わらべうた講座15人参加)を実施しました。◆おはなし会ボランティア養成講座(全3回、修了者15人)、障がい者サービスボランティア向け講座(1回25人参加)を実施しました。◆FC町田ゼルビアとの協定に基づき、館内の経路案内サインの装飾や選手による館内放送、天皇杯優勝記念の写真展示などのコラボ企画を実施しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆補助費は、鶴川図書館から移行した民設民営の図書コミュニティ施設「つるぼん」を支援するための図書コミュニティ施設運営事業補助金21,013千円が増加したことにより、15,680千円増加しました。◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金終了による23,086千円の皆減や、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が3,325千円減少したことにより、26,411千円減少しました。◆財源確保のため2025年2月から設置した自動販売機の2025年度の行政財産貸付料と売上分配金の収入は、2024年度よりも558千円増加して627千円となりました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供および子ども・若者が読書や図書館に興味を持つよう、若者が参画するイベントの実施、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆電子書籍サービスは、2025年度に実施した「町田市立図書館 利用者アンケート」において、回答者の41.8%が知っているという回答があったものの、利用したことがある方が15.1%にとどまっていることから、電子書籍サービスの利便性も含めたさらなるPRに取り組みする必要があります。◆2025年度から開始したFC町田ゼルビアとのコラボ企画を推進し、サポーター等へPRすることで来館者数を増やす取り組みを進める必要があります。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、サポートを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆電子書籍サービスの利用促進のために、学校を中心にさらなるPRに取り組みとともに、学校との連携を継続します。◆引き続き、FC町田ゼルビアとのコラボ企画を実施し、来館者数の増加に繋がっていきます。◆若者からの提案を実現できるよう、図書館プランナーによるイベントの実現を推進します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	中央図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。									
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則									
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称		町田市立中央図書館			
	蔵書数(視聴覚資料含む)	581,259点	584,142点	582,011点	建設年月日		1990年4月16日			
	予約・リクエスト件数	134,937件	128,250件	165,307件			2023年度	2024年度	2025年度	
	貸出者数	281,263人	264,858人	255,970人	有形固定資産減価償却率		66.1%	68.6%	71.2%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆電子書籍サービスの認知度はまだ低いと考えられるため、利用促進に向けた取り組みが必要です ◆非来館で登録・更新可能な新図書館システムの機能についてPRL、新規利用者を増加させます。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、サポートを行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆電子書籍サービスの利用促進のためさらなるPRIに取り組むとともに、学校との連携を継続します。◆新図書館システムになり来館せず利用者登録ができること、電子書籍サービスが利用できることをPRL、新規利用者を増加させます。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組めます。				◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。			
取組状況	◎	個別取組	◎ 電子書籍サービスは、利用促進のためのPRIに取り組んだことにより、97,029点の貸出がありました。	◎	個別取組	◎ インターネット上で利用者登録・更新ができる機能等のPRを進めたことにより、新規利用登録者数は10,494人となりました。	
			◎ 高校生・大学生を中心とした若者ボランティア(図書館プランナー)が企画運営したイベントを8件実施し、98人の参加がありました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1,138,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(視聴覚資料を含む、電子書籍は含まない)
		実績	809,106	762,815	782,572		(2026年度)	
来館者数	人	目標	612,000	612,000	612,000	612,000	612,000	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	546,529	538,159	464,631		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2024年度と比較して貸出点数は19,757点増加しました。来館者数はシステム更改に伴う計測機器入替の影響もあり73,528人減少しました。◆英語図書の活用や英語多読の周知のため開催した英語多読講演会は44人の参加がありました。◆気軽に子どもたちがデジタルツールに触れられるように実施した「くららぼ(町田)」では、ゲーム実況動画作成に17人、楽曲プログラミングに7人の参加がありました。◆中高生向けグループ学習室「わいわいキャレール」は延べ362組909人が利用しました。◆図書館のサービスや活用方法を知ってもらうための講座等のイベントを11回開催し、241人の参加がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	343,202	384,444	372,009	△ 12,435	地方税	0	0	0	0
物件費	134,109	174,597	140,848	△ 33,749	国庫支出金	1,290	9,927	3,022	△ 6,905
うち委託料	58,038	101,290	58,009	△ 43,281	都支出金	8,963	12,180	0	△ 12,180
維持補修費	9,657	3,774	2,753	△ 1,021	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	54,172	54,543	70,445	15,902	その他	1,394	4,188	4,352	164
減価償却費	34,830	34,830	34,830	0	行政収入 小計(a)	11,647	26,295	7,374	△ 18,921
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 615,379	△ 705,553	△ 650,572	54,981
賞与・退職手当引当金繰入額	51,056	79,660	37,061	△ 42,599	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	627,026	731,848	657,946	△ 73,902	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 615,379	△ 705,553	△ 650,572	54,981
特別費用(g)	16,159	22,175	23,347	1,172	特別収入(f)	0	0	26,998	26,998
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 16,159	△ 22,175	3,651	25,826	当期収支差額(e)+(h)	△ 631,538	△ 727,728	△ 646,921	80,807

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 186,652千円 会計年度任用職員 170,364千円 再任用職員 14,891千円 など	図書館システム使用料 53,759千円 施設運営補助業務委託料 45,936千円 図書館書籍等配送業務委託料 2,093千円 など
主な増減理由	システム更改の終了等による職員構成の変動などにより、12,435千円減少。	新図書館システム使用料などが増加した一方、新図書館システム導入委託料や鶴川図書館民営化移行委託料などの減少により、33,749千円減少。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	エルムビル総合管理業務負担金 48,273千円 町田市図書コミュニティ施設運営事業補助金 21,013千円 対面朗読・音訳校正・点訳校正謝礼 871千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 3,022千円
主な増減理由	エルムビル総合管理業務負担金が減少した一方、図書コミュニティ施設運営事業補助金が増加したことにより、15,902千円増加。	システム更改及び地域資料デジタル化で活用したデジタル田園都市国家構想交付金の皆減や、電気料金を対象とした物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の減少により、6,905千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	782,572	841	△ 118	行政費用が減少し、貸出点数が増加したことにより、単位あたりコストが118円減少しました。
		2024	762,815	959	184	
		2023	809,106	775	8	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	5,968	110,246	△ 12,383	補助費が増加した一方、その他の費用が減少したことにより、単位あたりコストが12,383円減少しました。
		2024	5,968	122,629	17,564	
		2023	5,968	105,065	△ 4,020	

④貸借対照表

(単位:千円)

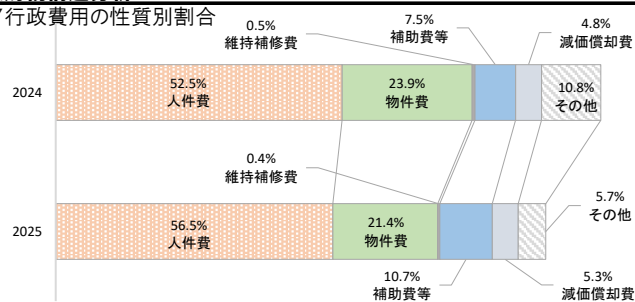
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0		0	流動負債			38,728		37,061	△ 1,667
	不納欠損引当金			0		0		還付未済金		0		0	0
	その他の流動資産			0		0		地方債		0		0	0
								賞与引当金		38,728		37,061	△ 1,667
固定資産	事業用資産	有形固定資産		704,769		669,938	△ 34,831	その他の流動負債		0		0	0
		土地		262,513		262,513	0	固定負債		227,364		197,478	△ 29,886
		建物(取得価額)		1,402,817		1,402,817	0	地方債		0		0	0
		建物減価償却累計額		△ 960,561		△ 995,392	△ 34,831	退職手当引当金		227,364		197,478	△ 29,886
		工作物(取得価額)		0		0	0	その他の固定負債		0		0	0
		工作物減価償却累計額		0		0	0	負債の部合計		266,092		234,539	△ 31,553
	インフラ資産	無形固定資産		0		0	0	純資産		1,770,512		1,766,805	△ 3,707
		有形固定資産		0		0	0						
		土地		0		0	0						
		工作物(取得価額)		0		0	0						
		工作物減価償却累計額		0		0	0						
建設仮勘定			0		0	0							
	その他の固定資産		1,331,835		1,331,406	△ 429	純資産の部合計		1,770,512		1,766,805	△ 3,707	
	資産の部合計		2,036,604		2,001,344	△ 35,260	負債及び純資産の部合計		2,036,604		2,001,344	△ 35,260	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	中央図書館 1,402,817千円(専有部分建物面積合計5,262.05㎡)	図書資産 1,324,806千円 出資金(エルム・スリー管理株)6,600千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、34,831千円減少。	購入20,055千円、寄贈2,863千円、除籍△22,730千円などにより、図書資産が429千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



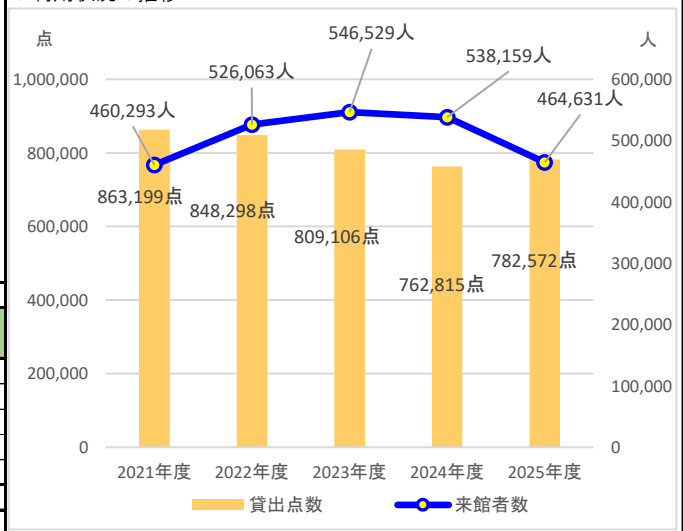
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
図書館管理事務	3.8	0.3	0.2	0.6	0.7	5.6	7.6
各館庶務事務	3.9	0.8	0.8	3.3	0.3	9.1	9.5
企画運営事務	9.3	0.3		2.9		12.5	11.7
資料貸出・閲覧業務	5.6	0.5		26.1	1.7	33.9	31.6
利用援助・普及事業	1.8	0.1		3.4		5.3	5.5
2025年度 特定事業 合計	24.4	2.0	1.0	36.3	2.7	66.4	65.9
2024年度 特定事業 合計	27.8	0.0	1.0	34.6	2.5	65.9	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆おはなし会は延べ85回1307人が参加しました。夏休みイベント子ども向けクイズ「まちクエキッズ」は全問正解者80人、中高生向け謎解きゲーム「まちクエ2025」は参加者187人クリア人数121人でした。中・高・大学生向けの「一日図書館員」は延べ4回10人が参加しました。「本のおたのしみぶくろ」で238袋714冊を貸出しました。◆こども映画会の参加者は118人、通常の映画会は全45回2,635人が参加しました。◆障がい者サービスのPRのため、マルチメディアDAISY上映会やリーディングトラッカー作り、点字体験会を行いました。◆新たに「図書館職員おすすめ本」をメールマガジンで配信開始しました。◆FC町田ゼルビアとの協定に基づき、館内の経路案内サインの装飾や選手による館内放送、天皇杯優勝記念の写真展示などのコラボ企画を実施しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、システム更改の終了等による職員構成の変動などにより12,435千円減少しました。◆物件費は、新図書館システム導入委託料や鶴川民営化移行業務委託料の減少などにより33,749千円減少しました。◆補助費は、図書コミュニティ施設運営事業補助金が増加したことにより15,902千円増加しました。◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金の皆減などにより6,905千円減少しました。◆都支出金は、市町村総合交付金が12,180千円皆減しました。◆財源確保のため2025年2月から設置した自動販売機の2025年度の行政財産貸付料と売上分配金の収入は、2024年度よりも558千円増加して627千円となりました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆電子書籍サービスは、2025年度に実施した「町田市立図書館 利用者アンケート」において、回答者の41.8%が知っているという回答があったものの、利用したことがある方が15.1%にとどまっていることから、電子書籍サービスの利便性も含めたさらなるPRに取り組む必要があります。◆2025年度から開始したFC町田ゼルビアとのコラボ企画を推進し、サポーター等へPRすることで来館者数を増やす取り組みを進める必要があります。◆若者から提案されたイベントの実現に向けて、サポートを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆電子書籍サービスの利用促進のために、学校を中心にさらなるPRに取り組むとともに、学校との連携を継続します。◆引き続き、FC町田ゼルビアとのコラボ企画を実施し、来館者数の増加に繋げていきます。◆若者からの提案を実現できるよう、中央図書館でのバックアップに取り組みます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む中央図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	さるびあ図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で豊かな生活の実現に寄与します。									
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則									
			2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称		町田市立さるびあ図書館		
	蔵書数		130,637点	127,123点	122,173点	建設年月日		1972年5月22日		
	予約・リクエスト数		85,435件	79,379件	89,336件			2023年度	2024年度	2025年度
	貸出者数		84,442人	77,030人	76,966人	有形固定資産減価償却率		74.6%	75.9%	77.2%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の見直しの検討が必要となります。◆学校図書館支援貸出について、学校図書館と連携し学校のニーズに合わせて利用促進に取り組む必要があります。◆さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、さるびあ図書館が持つ移動図書館と学校図書館支援貸出機能について再編方法の検討が必要となります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆子どもが本に触れる機会を増やすために、移動図書館の出張運行先の拡大を進めています。◆さるびあ図書館の中央図書館への統合に向けて、移動図書館や学校図書館支援貸出などの機能再編方法を決定します。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。	
取組状況	○個別取組	○移動図書館については、13か所への出張運行や利用者アンケートを実施しました。	
		○さるびあ図書館閉館時に「移動図書館機能」及び「学校図書館支援機能」を他館に移管する機能再編方法をまとめました。	
		○非常照明修繕や敷地内マンホール取替修繕などを実施し、施設の安全管理及び老朽化対策に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	392,000	392,000	392,000	392,000	392,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館2台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	310,420	273,798	277,858		(2026年度)	
来館者数	人	目標	228,000	228,000	228,000	228,000	228,000	1年間に来館した利用者の延べ人数 (2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	141,863	140,581	124,720		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2024年度と比較して貸出点数は4,060点増加しました。来館者数はシステム更改に伴う計測機器入替の影響もあり15,861人減少しました。◆移動図書館2台が37か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。◆移動図書館の出張運行を、芹ヶ谷公園や幼稚園・保育園、イベントなど13か所に出向き、貸出や読み聞かせ等を行いました。◆学校図書館支援貸出については、2024年度と比較して125冊増えて2,785冊の利用がありました。◆非常照明修繕などを実施し、施設の安全管理及び老朽化対策に努めました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	96,633	103,561	107,117	3,556	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	27,182	50,027	40,973	△ 9,054		国庫支出金	0	8,470	1,017	△ 7,453
	うち委託料	7,098	30,091	8,274	△ 21,817		都支支出金	1,654	0	0	0
	維持補修費	20	1,524	1,109	△ 415		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	11	0	0	0
	補助費等	18	17	15	△ 2		その他	225	215	247	32
	減価償却費	1,806	1,806	1,806	0		行政収入 小計(a)	1,890	8,685	1,264	△ 7,421
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 136,720	△ 158,675	△ 159,547	△ 872
	賞与・退職手当引当金繰入額	12,951	10,425	9,791	△ 634		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	138,610	167,360	160,811	△ 6,549		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 136,720	△ 158,675	△ 159,547	△ 872
特別費用 (g)		7,413	10,854	12,629	1,775	特別収入 (f)		374	1,724	1,046	△ 678
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		△ 7,039	△ 9,130	△ 11,583	△ 2,453	当期収支差額 (e)+(h)		△ 143,759	△ 167,805	△ 171,130	△ 3,325

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 63,981千円 常勤職員 33,928千円 再任用職員 9,188千円 など	図書館システム使用料 24,500千円 光熱水費 4,833千円 清掃業務外委託料 4,639千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、3,556千円増加。	新図書館システム使用料が増加した一方、新システム導入委託料が減少したことなどにより、9,054千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	非常照明修繕 742千円 施設内マンホール取替修繕 198千円 高圧機器修繕 88千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,017千円
主な増減理由	読書室照明器具取替修繕が完了したことなどにより、415千円減少。	デジタル田園都市国家構想交付金の皆減と物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金が減少したことにより、7,453千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	277,858	579	△ 32	貸出点数が増加したことなどにより、単位あたりのコストが32円減少しました。
		2024	273,798	611	164	
		2023	310,420	447	57	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	1,318	122,011	△ 4,969	物件費が減少したことなどにより、単位あたりのコストが4,969円減少しました。
		2024	1,318	126,980	21,813	
		2023	1,318	105,167	7,382	

④貸借対照表

(単位:千円)

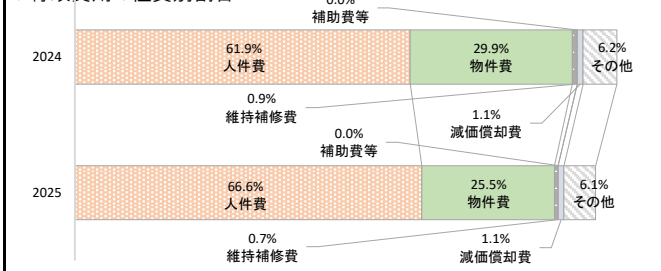
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A						
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			9,385	9,791	406							
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0							
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0							
固定資産	事業用資産	有形固定資産			113,432	111,626	△ 1,806	賞与引当金			9,385	9,791	406						
		土地			80,530	80,530	0	その他の流動負債			0	0	0						
		建物(取得価額)			130,612	130,612	0	固定負債			40,013	38,512	△ 1,501						
		建物減価償却累計額			△ 97,710	△ 99,516	△ 1,806	地方債			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			40,013	38,512	△ 1,501						
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			49,398	48,303	△ 1,095						
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0	純資産			277,522	268,393	△ 9,129						
		土地			0	0	0												
		工作物(取得価額)			0	0	0												
		工作物減価償却累計額			0	0	0												
		無形固定資産			0	0	0												
		建設仮勘定			0	0	0	純資産の部合計			277,522			268,393			△ 9,129		
		その他の固定資産			213,488	205,070	△ 8,418												
資産の部合計				326,920	316,696	△ 10,224	負債及び純資産の部合計				326,920	316,696	△ 10,224						

⑤貸借対照表的特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	さるびあ図書館 130,612千円	図書資産 205,070千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、1,806千円減少。	購入3,000千円、寄贈1,103千円、除籍△12,629千円などにより、図書資産が8,418千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

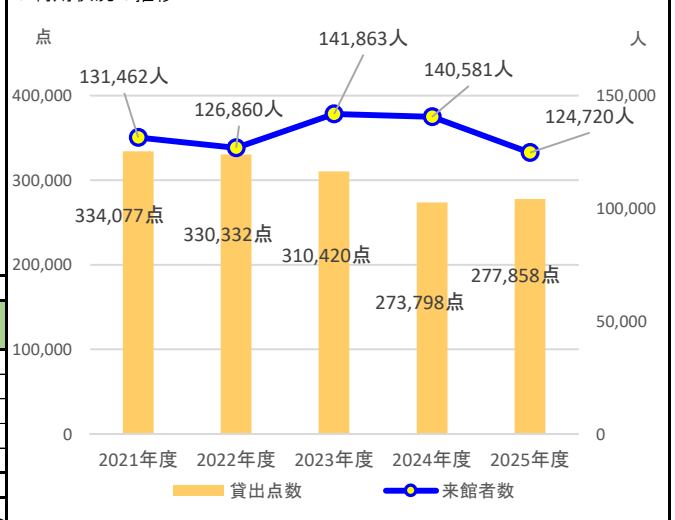


▽事業に関わる人員

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	図書館管理事務	1.0					1.0	0.9
	各館庶務事務	1.2			0.6	0.1	1.9	1.1
	企画運営事務	1.0			0.3		1.3	1.0
	資料貸出・閲覧事務	1.8	1.0	1.0	11.1	2.1	17.0	16.6
	利用援助・普及事業				1.0		1.0	1.0
	2025年度 特定事業 合計	5.0	1.0	1.0	13.0	2.2	22.2	20.6
2024年度 特定事業 合計		5.0	2.0	0.0	12.4	1.2	20.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆移動図書館のイベントへの出張運行としては、10月に「第53回デゴイチ祭り」「バイエネ君でさんあーるまつり」、11月に「小山田桜台団地PLAY DAY!2025」、2月に「まちだECO to フェスタ 2026」の4回実施しました。来館者数は469人、貸出数は100点、おはなし会参加者数は110人でした。
- ◆学校図書館支援貸出として、小・中学校へテーマ別貸出セットも含めて資料2,785点を貸出・配本しました。
- ◆おはなし会の参加者が、2024年度と比較して174人増えて431人となりました。
- ◆予約本セルフ受取コーナーを設置したことにより、予約・リクエスト件数が9,957件増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより、3,556千円増加しました。
- ◆物件費は、新図書館システムの導入が完了したことなどにより、9,054千円減少しました。
- ◆維持補修費は、読書室照明器具取替修繕が完了したことなどにより、415千円減少しました。
- ◆事業に関わる人員は、障がい者雇用(会計年度補助職員)などにより、全体で1.6人増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆移動図書館利用者アンケートの結果を分析し、定期巡回場所の見直しの検討を進める必要があります。
- ◆子ども・若者の読書活動の推進のため、移動図書館の出張運行先の拡大に取り組む必要があります。
- ◆学校図書館支援貸出について、学校図書館と連携し学校のニーズに合わせて利用促進に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて、定期巡回場所の見直しを進めていきます。 ◆移動図書館の出張運行先の拡大に向けて、幼稚園・保育園等へのPR及び利用意向調査を実施します。 ◆施設の空調設備を修繕し、年間を通じて快適な利用環境を整備することで、利用者利便性の向上を図ります。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。 ◆適切な修繕等を行い、施設の安全管理及び老朽化対策に努めます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	金森図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
	蔵書数	2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立金森図書館		
	予約・リクエスト件数	130,379件	129,158件	130,267件	建設年月日	2000年7月4日		
	貸出者数	154,259件	139,989件	157,149件		2023年度	2024年度	2025年度
		161,651人	147,371人	148,595人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。◆児童向け、シニア向けなどの魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けて取り組む必要があります。◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための費用を確保する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	○	◆他部署と連携した資料提供、特集展示を行って利用促進を図ります。◆児童向けイベント、シニア向けイベントなど、幅広い世代に楽しんでもいただけるような魅力的なイベントを数多く実施し、さらなる来館者数の増加に向けた取組を行います。◆雨漏りの原因場所を特定するための調査を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む金森図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。
	○	○保健予防課との「食育月間」、障がい福祉課との「障害者週間」について、各部署と連携した特集コーナーを2回設置しました。	
	○	○児童向けのおはなし会など年間13件の魅力的なイベントを開催し、来館者数の向上に努めました。	
	○	○雨漏りを解消するために屋上防水工事の実施が必要となることがわかり実施設計などの準備を行いました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	722,000	722,000	722,000	722,000	722,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	588,727	539,548	571,169		(2026年度)	
来館者数	人	目標	260,000	260,000	290,000	260,000	260,000	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	239,392	283,405	206,541		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2024年度と比較して貸出点数は31,621点増加しました。来館者数はシステム更改に伴う計測機器入替の影響もあり76,864人減少しました。◆予約・リクエスト件数は予約本セルフ受取コーナー設置により、17,160件増加しました。◆“こわいおはなし”などテーマを工夫し、おはなし会の参加者は2024年度と比較して265人増加となる949人の参加がありました。◆夏休みイベント「きょうりゅうクイズにちようせん」を開催し、延べ803人の参加がありました。◆金森図書館25周年イベントとして、大人向けの読書手帳を配布するなど、図書館のPRを行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	72,627	82,152	84,113	1,961	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	34,203	53,960	43,377	△ 10,583		国庫支出金	0	2,225	0	△ 2,225
	うち委託料	8,727	28,545	8,819	△ 19,726		都支支出金	989	1,678	0	△ 1,678
	維持補修費	721	31,221	735	△ 30,486		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	11	10	10	0		その他	272	312	302	△ 10
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	1,261	4,215	302	△ 3,913
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 123,302	△ 172,331	△ 136,276	36,055
	賞与・退職手当引当金繰入額	17,001	9,203	8,343	△ 860		金融収支差額(d)	0	0	△ 229	△ 229
	行政費用 小計(b)	124,563	176,546	136,578	△ 39,968		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 123,302	△ 172,331	△ 136,505	35,826
	特別費用(g)	5,984	7,506	4,372	△ 3,134		特別収入(f)	359	1,843	133	△ 1,710
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 5,625	△ 5,663	△ 4,239	1,424		当期収支差額(e)+(h)	△ 128,927	△ 177,994	△ 140,744	37,250

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 58,077千円 常勤職員 20,861千円 再任用職員 5,161千円 など	図書館システム使用料 26,439千円 光熱水費 3,101千円 清掃委託料 2,923千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、1,961千円増加。	新図書館システム使用料が増加した一方、新システム導入委託料が減少したことなどにより、10,583千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	車止め交換修繕 235千円 駐車場車止めパイプ設置修繕 157千円 高圧交流負荷開閉器用ヒューズ更新修繕 102千円 など	国庫支出金 0千円
主な増減理由	照明改修工事などの終了により、30,486千円減少。	デジタル田園都市国家構想交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の皆減により、2,225千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	571,169	239	△ 88	物件費及び維持補修費が減少したことにより、単位あたりのコストが88円減少しました。
		2024	539,548	327	115	
		2023	588,727	212	38	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	1,500	91,052	△ 26,645	物件費及び維持補修費が減少したことにより、単位あたりのコストが26,645円減少しました。
		2024	1,500	117,697	34,655	
		2023	1,500	83,042	14,807	

④貸借対照表

(単位:千円)

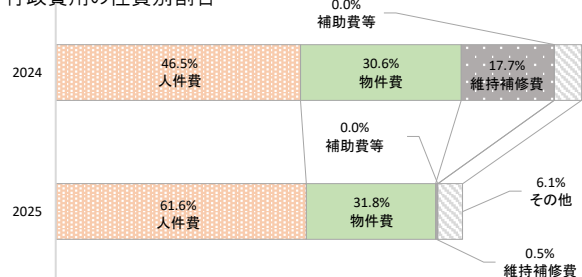
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	7,372	7,734	362	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	7,372	7,734	362
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	50,055	50,292	237
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	25,000	25,000	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	25,055	25,292	237
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	57,427	58,026	599
		有形固定資産	0	0	0	純資産	119,807	119,841	34
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
工作物減価償却累計額		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産		177,234	177,867	633	純資産の部合計	119,807	119,841	34	
資産の部合計		177,234	177,867	633	負債及び純資産の部合計	177,234	177,867	633	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	図書資産 177,867千円	地方債 25,000千円	特になし
主な増減理由	購入3,341千円、寄贈1,532千円、除籍△4,372千円などにより、図書資産額633千円増加。	増減なし	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



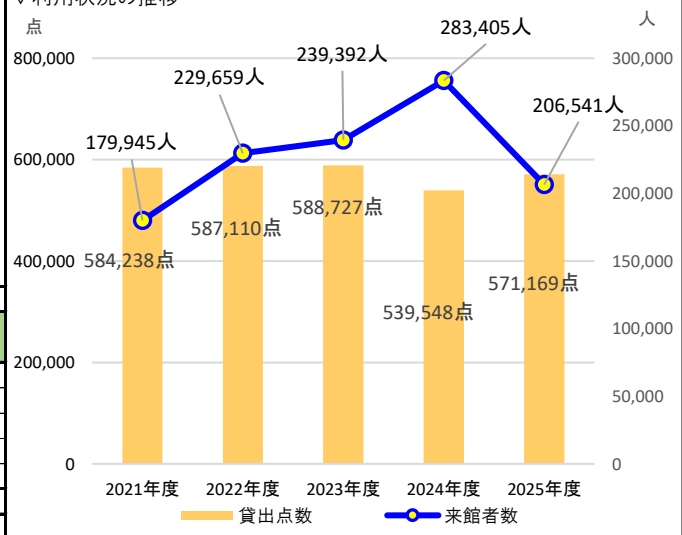
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳							
図書館管理事務	0.3	0.1		0.2		0.6	0.8
各館庶務事務	1.4	0.2		0.1		1.7	1.8
企画運営事務	0.3	0.1		0.5		0.9	1.0
資料貸出・閲覧事務	2.0	0.6		9.8	2.9	15.3	14.9
利用援助・普及事業				0.7		0.7	0.7
2025年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.3	2.9	19.2	19.2
2024年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.3	2.9	19.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆毎週開催している定例おはなし会、クイズ形式の夏休みイベント「きょうりゅうクイズにちょうせん」、英字新聞で数冊の本を包むお楽しみ袋形式での本の貸出イベント「新春お楽しみ袋」など、年間13件の魅力的なイベントを開催しました。特に、夏休みイベントの参加者は2024年度と比較して156人増加の803人でした。◆シニア層の貸出数増加に向けて、「歳を重ねるってステキ!」「人生今が一番楽しい!」「人生100年時代のライフデザイン」をテーマに特集コーナーを3回設置して、貸出数の増加を図りました。◆予約本セルフ受取コーナーを2025年3月に設置し利用者の利便性向上を図ったことで、予約・リクエスト件数は2024年度と比較して17,160件増加の157,149件でした。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより、1,961千円増加しました。
◆物件費は、新図書館システムの導入が完了したことなどにより、10,583千円減少しました。
◆維持補修費は、照明改修工事などの終了により、30,486千円減少しました。
◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の皆減により、2,225千円減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆他の機関と連携して、地域の課題解決や生活に役立つ情報を提供することが必要です。
◆来館者数の目標を達成できるように、利用者層を意識したイベントに力を入れることが必要です。
◆2000年に建築された金森図書館は施設の老朽化が進んでおり、維持管理のための必要な修繕を実施する必要があります。また、適正な管理と修繕により、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えていくことが必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆引き続き他部署と連携した資料提供及び特集展示を行い、利用促進を図ります。 ◆児童と保護者が一緒に楽しめる魅力的なイベントを時期をとらえて数多く開催するなど、来館者数の増加に向けた取組を行います。 ◆屋上防水工事など施設の改修工事を進めます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆安心・安全に利用していただくために、老朽化が進む金森図書館の修繕を計画的に行い、施設の安全管理に努めます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	忠生図書館事業		事業類型	2:施設運営型	

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
	2023年度			2024年度		2025年度		施設の名称
	蔵書数			108,257点		111,186点		建設年月日
	予約・リクエスト件数			62,465件		60,783件		2015年2月27日
	貸出者数			100,443人		92,039人		2023年度
								2024年度
								2025年度
								有形固定資産減価償却率
								93.9%
								95.0%
								96.0%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多彩な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆忠生市民センターの空き会議室の開放の効果もあり、2023年度と比較し中高生の来館が多くなりました。継続して中高生が来館できる取組を行う必要があります。◆来館者数が横ばい傾向にあるため、来館者の増加に向けた新たなイベントや取組を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆中高生世代の図書館利用促進のため、多目的室や机のある椅子の利用について検討します。◆地域に親しまれ幅広い年齢の方が利用しやすい図書館となるよう、10周年記念イベントを実施します。◆システム更改で導入した新しい図書館サービスのPRを推進します。				◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆開館後9年が経過し、施設面で修繕が必要な箇所が増えてきています。安心して忠生図書館を利用していただくため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。			
取組状況	○	個別取組	○ 多目的室に利用者用の荷物入れのカゴを設置し、机周辺の環境整備を行いました。	○	個別取組	○ 忠生図書館10周年記念イベント(装飾・来館者と職員からのメッセージ掲示・おはなし会・特集)を実施しました。	○
			○ 町田市公式LINEから図書館マイページへの連携やデジタル利用券など、新しいサービスを子育てひろばなどでPRしました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	568,000	568,000	568,000	568,000	568,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	416,669	382,306	390,874		(2026年度)	
来館者数	人	目標	219,000	219,000	219,000	219,000	219,000	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	159,880	151,201	175,288		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆目標に至りませんでした。来館者数は24,087人、貸出点数は8,568点増加しました。◆本の魅力をPRする特集を120回実施しました。◆小学校3校と児童保育クラブ1館の図書館見学やブックトーク、おはなし会を実施しました。◆中学校3校8人の職場体験を受入れました。◆関係部署7課と共催事業を行いました。(生活衛生課・市民生活安全課・保健予防課は特集、子どもセンターただONはイベント、子育て相談センターはミニおはなし会、忠生市民センターは市民センターまつり、生涯学習センターは講座支援)◆10周年記念イベントで、227人の方からメッセージをいただきました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
行政費用	人件費	63,540	69,089	69,433	344	地方税	0	0	0
	物件費	33,592	45,327	41,882	△ 3,445	国庫支出金	0	1,830	0
	うち委託料	12,369	23,996	13,139	△ 10,857	都支出金	989	0	0
	維持補修費	127	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0
	補助費等	11	10	7	△ 3	その他	89	142	164
	減価償却費	931	931	931	0	行政収入 小計(a)	1,078	1,972	164
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 114,643	△ 120,460	△ 118,606
	賞与・退職手当引当金繰入額	17,520	7,075	6,517	△ 558	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用 小計(b)	115,721	122,432	118,770	△ 3,662	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 114,643	△ 120,460	△ 118,606
	特別費用(g)	761	625	903	278	特別収入(f)	34	2,638	6,347
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 727	2,013	5,444	3,431	当期収支差額(e)+(h)	△ 115,370	△ 118,447	△ 113,162

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 51,452千円 常勤職員 12,805千円 再任用職員 5,168千円 など	図書館システム使用料 23,619千円 忠生市民センター物件費 9,789千円 光熱水費 2,016千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、344千円増加。	新図書館システム使用料などが増加した一方、新図書館システム導入委託料が減少したことなどにより、3,445千円減少。

勘定科目	国庫支出金
決算額の主な内訳	国庫支出金 0千円
主な増減理由	デジタル田園都市国家構想交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の皆減により、1,830千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	390,874	304	△ 16	貸出点数が増加し、物件費が減少したことなどにより、単位あたりコストが16円減少しました。
		2024	382,306	320	42	
		2023	416,669	278	30	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	1,229	96,640	△ 2,979	物件費が減少したことなどにより、単位あたりコストが2,979円減少しました。
		2024	1,229	99,619	5,460	
		2023	1,229	94,159	5,765	

④貸借対照表

(単位:千円)

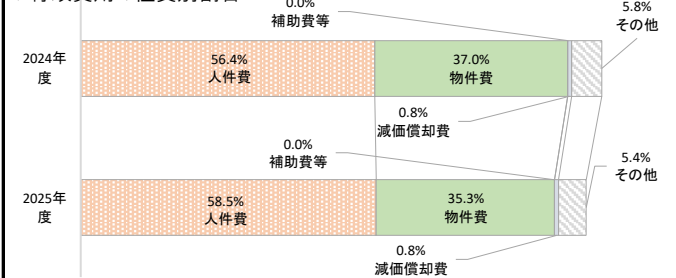
勘定科目			2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			6,865	6,517	△ 348
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	賞与引当金			6,865	6,517	△ 348
		土地		0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)		0	0	固定負債			23,559	17,046	△ 6,513
		建物減価償却累計額		0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)		0	0	退職手当引当金			23,559	17,046	△ 6,513
		工作物減価償却累計額		0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	負債の部合計			30,424	23,563	△ 6,861
		有形固定資産		0	0	純資産			135,023	144,472	9,449
		土地		0	0						
		工作物(取得価額)		0	0						
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0						
		無形固定資産		0	0						
その他の固定資産			165,447	168,035	2,588	純資産の部合計			135,023	144,472	9,449
資産の部合計			165,447	168,035	2,588	負債及び純資産の部合計			165,447	168,035	2,588

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 164,380千円 忠生図書館書架等備品 3,655千円	特になし	特になし
主な増減理由	図書資産は、購入3,373千円、寄贈972千円、除籍△903千円などにより、3,519千円増加。書架等備品は減価償却により、△931千円減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



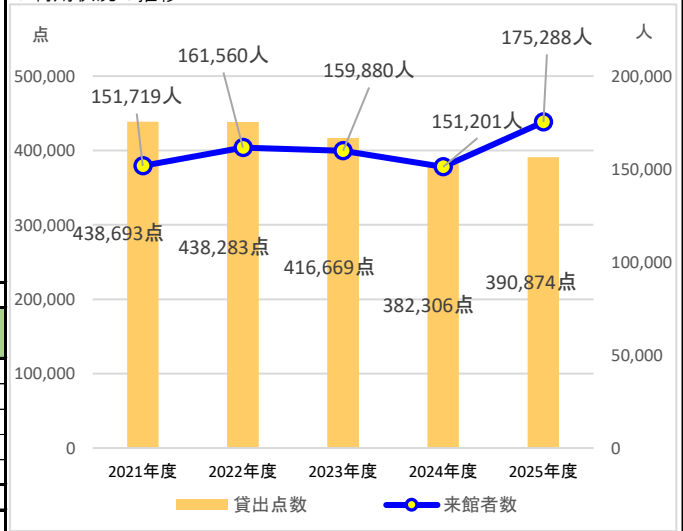
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
						合計	合計
図書館管理事務	0.2			0.2		0.4	0.5
各館庶務事務	1.0	0.5		0.1		1.6	1.4
企画運営事務	0.2	0.1		0.6		0.9	1.0
資料貸出・閲覧事務	0.6	0.4		8.1	1.4	10.5	10.3
利用援助・普及事業				1.6		1.6	1.7
2025年度 特定事業 合計	2.0	1.0	0.0	10.6	1.4	15.0	14.9
2024年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	10.4	1.5	14.9	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆10周年記念イベントを実施し、利用者からのメッセージ掲示や装飾、特集、おはなし会をしました。◆利用マナー向上を目的に「本は泣いている展」を実施し、汚損や書込み本を展示し理解啓発に努めました。◆忠生市民センターまつりに参加し、新しいデジタルサービスや電子書籍のPRをしました。◆「えいごのまちだ」を推進するため英語による英語絵本おはなし会を2回実施し37人が参加しました。◆いつ来ても新しい本との出会いや情報が得られるよう、児童・中高生・一般コーナーなどで様々なジャンルの特集を120回実施しました。◆対象年齢を分けた3種類のおはなし会を実施し482人が参加しました。◆図書館利用者アンケートにおいて、忠生図書館はサービスに関する総合満足度について「満足」と回答した方が市立図書館の中で一番高い割合でした。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆人件費は、職員構成の変動などにより、344千円増加しました。
◆物件費は、新図書館システムの導入が完了したことなどにより、3,445千円減少しました。
◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金及び物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の皆減により、1,830千円減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆改修工事による堺図書館の休館の影響があるものの、様々なイベントやPRを実施したことで来館者数や貸出点数は増加しました。この増加傾向を維持し多くの方が来館していただけるよう、新規利用者や中高生世代の利用促進が必要です。◆10周年記念イベントを通じ、地域に親しまれる図書館であることを再認識できました。今後も利用者から評価される図書館となるため、地域や他部署と連携した取組を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆システム更改で導入した新しいデジタルサービスのPRを推進します。 ◆中高生世代の図書館利用促進のため、多目的室やYAコーナーの利用方法について検討します。 ◆忠生地域にある関係機関や他部署と連携し、来館者や新規利用者を増やすPRやイベントを実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆開館後10年が経過し、施設面で修繕が必要な箇所が増えてきています。安心して忠生図書館を利用していただくため、忠生市民センターと連携し施設の安全管理及び維持管理を行います。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	木曾山崎図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立木曽山崎図書館		
	蔵書数	54,382点	55,133点	55,895点	建設年月日	1976年3月25日		
	予約・リクエスト件数	40,057件	38,435件	41,518件		2023年度	2024年度	2025年度
	貸出者数	58,593人	52,616人	49,901人	有形固定資産減価償却率	65.5%	68.3%	71.1%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆これまで図書館を利用したことがない方々及び既に図書館を利用しているシニア世代の方々にもご利用いただけるように、魅力的な書架づくりを継続していく必要があります。◆建築後40年以上が経過していることから、利用者に安心して施設を利用いただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆近隣の小学校等と連携し、出張おはなし会や図書館見学に取り組みます。 ◆他館からの資料を取り寄せ、シニア世代の方々にも満足していただけるような魅力的な書架づくりを継続していくとともに、他部署と連携した特集展示の回数を増やします。◆照明器具のLED修繕を行うことにより、快適な読書環境の整備を行います。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。	
取組状況	○	七国山小学校の出張おはなし会及び七国山小学校、本町田ひなた小学校、町田第三小学校の図書館見学を行いました。	
	個別取組	健康推進課、地区街づくり課、保健予防課、生涯学習総務課と連携した特集展示を行いました。	
	○	館内全照明をLED化し、快適な読書環境を整備しました。また空調や外壁などの修繕を行うことにより施設の維持管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	240,000	240,000	240,000	240,000	240,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	181,588	159,661	156,409		(2026年度)	
来館者数	人	目標	197,000	197,000	197,000	197,000	197,000	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	169,078	150,066	102,009		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2024年度と比較して貸出点数は3,252点減少しました。来館者数はシステム更改に伴う計測機器入替の影響もあり48,057人減少しました。◆毎月館内に特集コーナーを設置し、図書館の利用促進を図りました(62回)。◆七国山小学校にて対面での出張おはなし会を行い、2024年度と比較して70人増加となる322人が参加しました。◆七国山小学校、本町田ひなた小学校、町田第三小学校の図書館見学の受け入れを行い198人が参加しました。◆自動販売機型おすすめ本の紹介を行い316件紹介しました。また、本のキャラクター人気投票を実施し176票の投票があるなど各種イベントを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	42,117	45,451	49,612	4,161	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	13,558	19,251	13,588	△ 5,663		国庫支出金	0	785	0	△ 785
	うち委託料	2,400	8,120	2,750	△ 5,370		都支支出金	664	0	0	0
	維持補修費	462	1,387	2,967	1,580		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	7	7	10	3		その他	56	64	80	16
	減価償却費	3,177	3,177	3,177	0		行政収入 小計(a)	720	849	80	△ 769
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 64,366	△ 72,519	△ 84,286	△ 11,767
	賞与・退職手当引当金繰入額	5,765	4,095	15,012	10,917		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	65,086	73,368	84,366	10,998		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 64,366	△ 72,519	△ 84,286	△ 11,767
特別費用(g)		3,129	2,052	1,895	△ 157	特別収入(f)		0	166	95	△ 71
特別収支差額(f)-(g)=(h)		△ 3,129	△ 1,886	△ 1,800	86	当期収支差額(e)+(h)		△ 67,495	△ 74,405	△ 86,086	△ 11,681

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 26,445千円 常勤職員 23,154千円 など	図書館システム使用料 7,579千円 清掃業務委託料 1,522千円 図書館書籍等配送業務委託料 295千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、4,161千円増加。	新図書館システム使用料が増加した一方、新システム導入委託料が減少したことなどにより、5,663千円減少。

勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	館内照明設備LED化改修工事 2,401千円 外壁防水修繕 264千円 空調修繕 182千円 など	国庫支出金 0千円
主な増減理由	館内照明のLED化、空調の修繕、事務所側の外壁防水修繕により、1,580千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金及び物価高騰対応重点支援地層創生臨時交付金の皆減により、785千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	156,409	539	79	貸出点数が減少したことにより、単位あたりコストが79円増加しました。
		2024	159,661	460	102	
		2023	181,588	358	41	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	320	263,644	34,369	人件費、維持修繕費、賞与・退職手当引当金繰入額が増加したことにより、34,369円増加しました。
		2024	320	229,275	25,881	
		2023	320	203,394	13,019	

④貸借対照表

(単位:千円)

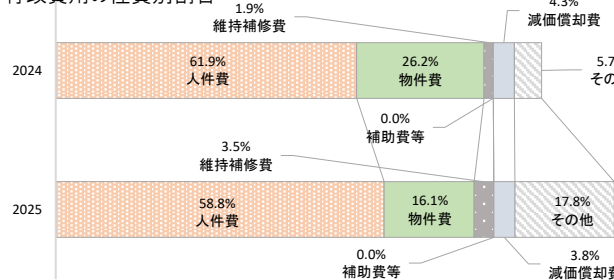
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			4,075	5,208	1,133	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		35,918	32,742	△ 3,176	賞与引当金			4,075	5,208	1,133	
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		111,462	111,462	0	固定負債			15,706	25,148	9,442	
		建物減価償却累計額		△ 75,544	△ 78,720	△ 3,176	地方債			0	0	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			15,706	25,148	9,442	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			19,781	30,356	10,575	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			89,594	76,369	△ 13,225	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
		工作物減価償却累計額		0	0	0							
		無形固定資産		0	0	0							
		建設仮勘定		0	0	0							
その他の固定資産			73,457	73,983	526	純資産の部合計			89,594	76,369	△ 13,225		
資産の部合計				109,375	106,725	△ 2,650	負債及び純資産の部合計			109,375	106,725	△ 2,650	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	図書資産 73,983千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,176千円減少。	購入1,656千円、寄贈670千円、除籍△1,895千円などにより、526千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



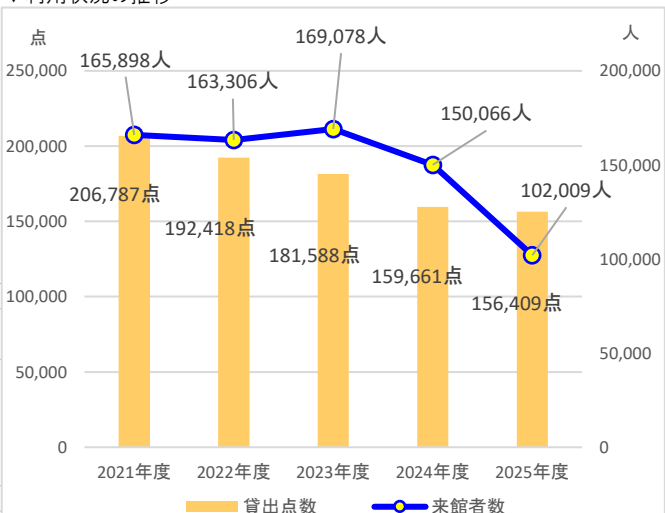
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤		再任用 (フルタイム)		再任用 (短時間)		会計年度 (業務)		会計年度 (補助)		2025 合計	2024 合計
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)
図書館管理事務	0.2			0.1		0.3	0.4					
各館庶務事務	1.4			0.1		1.5	1.1					
企画運営事務	0.5			0.2		0.7	0.8					
資料貸出・閲覧業務	0.9			3.8	0.5	5.2	6.2					
利用援助・普及事業				1.3		1.3	0.9					
2025年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.5	0.5	9.0	9.4					
2024年度 特定事業 合計	2.0	1.1	0.0	5.8	0.5	9.4						

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆七国山小学校の1年生、2年生、3年生及びすべての学級を対象に出張おはなし会を実施し、2024年度と比較して70人増加となる322人が参加しました。
- ◆また、七国山小学校、本町田ひなた小学校、町田第三小学校の図書館見学の受け入れを実施し、198人が参加しました。
- ◆運動や食事、昭和100年、生涯現役の本などを他館から取り寄せて、魅力的な書架づくりに取り組みました。
- ◆健康推進課や保健予防課との連携による健康保健関連の特集などを実施し、図書館の利用促進を図りました。
- ◆館内全照明をLED化しました。また、空調、トイレ等緊急修繕を行うことにより、施設の維持管理に努めました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより、4,161千円増加しました。
- ◆物件費は、新図書館システムの導入が完了したことなどにより、5,663千円減少しました。
- ◆維持補修費は、LED化、空調修繕、男子トイレ修繕、外壁防水修繕などにより、1,580千円増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
- ◆現在利用しているシニア世代の方々にさらにご利用いただくとともに、これまで図書館を利用したことがない方にもご利用いただけるように、魅力的な書架づくりを進めていきます。
- ◆毎月開催しているおはなし会の参加人数を増やすため、子育て世代が参加しやすくなるような取組が必要です。
- ◆建築後50年が経過していることから、利用者に安心して施設を利用していただけるよう、適正な維持管理を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆他館からの資料を取り寄せや大活字本の購入など、シニア世代の方々に満足していただける魅力的な書架づくりを継続していくとともに、他部署と連携した特集展示を引き続き行います。 ◆開館50周年事業として各種イベントを行い、子育て世代を含めて多くの方々が図書館を利用するきっかけをつくります。 ◆近隣の小学校等と連携したおはなし会や図書館見学を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆必要な修繕等を行い、利用者に安心して施設を利用していただけるように施設の維持管理を行います。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	堺図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で豊かな生活の実現に寄与します。							
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則							
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立堺図書館		
	蔵書数	69,801点	68,861点	69,920点	建設年月日	1983年9月25日		
	予約・リクエスト件数	33,193件	29,541件	30,554件		2023年度	2024年度	2025年度
	貸出者数	39,184人	31,904人	23,995人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。◆移動図書館については、移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて出張運行先の拡大や、定期巡回場所の運行時間等の見直しの検討が必要となります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆堺市民センターの改修工事中も、一定のサービスが提供できるよう取り組みます。 ◆地域と連携した展示の実施や地域の小学校を対象とした図書館見学を積極的に受け入れます。 ◆移動図書館の機能再編方法を決定します。		◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆適切な修繕などを行い、施設の安全管理に努めます。 ◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。	
取組状況	個別取組	○ 堺市民センター改修工事に伴う2025年6月末までの休館中に、「予約資料の受渡しサービス」を実施しました。	
	共同取組	○ 地域で活動している4つの団体と個人3人と連携し、展示会を7回行うことができました。	
	共同取組	○ 移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めるため、移動図書館利用者アンケートを実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	257,000	257,000	257,000	257,000	257,000	1年間に貸出した図書資料の延べ点数 (移動図書館1台分を含む、電子書籍は含まない)
		実績	174,205	136,397	109,985		(2026年度)	
来館者数	人	目標	74,000	74,000	74,000	74,000	74,000	1年間に来館した利用者の延べ人数 (2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	60,697	52,373	36,342		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆堺市民センター改修工事に伴う休館期間や駐車場の利用できない期間があったため、来館者数は16,031人、貸出点数は26,412点減少しました。◆おはなし会(16回参加者72人)、図書館見学、児童対象のイベント(3回参加者292人)等を行いました。図書館見学は積極的な受入をしたことで、2024年度と比較して件数及び参加者は3件109人増加し、4件165人となりました。◆子どもセンターばお分館WAAAOにて出張おはなし会(2回参加者22人)を行いました。◆移動図書館1台が21か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目	2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A			A	B	B-A
行政費用	人件費	55,446	59,766	56,290	△ 3,476	地方税	0	0	0	0
	物件費	14,625	21,275	24,214	2,939	国庫支出金	0	5,740	0	△ 5,740
	うち委託料	3,620	10,673	9,047	△ 1,626	都支支出金	1,032	0	63	63
	維持補修費	490	83	319	236	分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	11	10	6	△ 4	その他	50	66	88	22
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	1,082	5,806	151	△ 5,655
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 78,050	△ 81,466	△ 86,223	△ 4,757
	賞与・退職手当引当金繰入額	8,560	6,138	5,545	△ 593	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	79,132	87,272	86,374	△ 898	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 78,050	△ 81,466	△ 86,223	△ 4,757
特別費用 (g)	1,957	2,926	1,526	△ 1,400	特別収入 (f)	291	912	8,355	7,443	
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 1,666	△ 2,014	6,829	8,843	当期収支差額 (e)+(h)	△ 79,716	△ 83,480	△ 79,394	4,086	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	会計年度任用職員 39,388千円 常勤職員 12,480千円 再任用職員 4,414千円 など	図書館システム使用料 12,338千円 図書館システム保守費 5,270千円 堺市民センター物件費 3,678千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、3,476千円減少。	新図書館システム導入委託料などが減少した一方、新図書館システム使用料や新図書館システム保守費などの増加により、2,939千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	堺市民センター維持補修費 319千円	国庫支出金 0千円
主な増減理由	堺市民センター維持補修費(ブラインド修繕)などの増加により、236千円増加。	デジタル田園都市国家構想交付金の皆減により、5,740千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	109,985	785	145	貸出点数が減少したことなどにより、単位あたりコストが145円増加しました。
		2024	136,397	640	186	
		2023	174,205	454	57	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	430	200,870	△ 2,088	人件費が減少したことなどにより、単位あたりコストが2,088円減少しました。
		2024	430	202,958	18,930	
		2023	430	184,028	14,716	

④貸借対照表

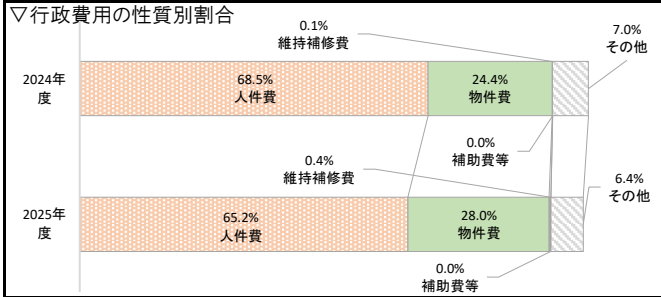
(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			6,138	5,545	△ 593	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金			6,138	5,545	△ 593
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			24,307	15,883	△ 8,424
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			24,307	15,883	△ 8,424
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
		無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			30,445	21,428	△ 9,017
	インフラ資産	有形固定資産			0	0	0	純資産			97,374	106,977	9,603
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
無形固定資産			0	0	0								
建設仮勘定			0	0	0								
その他の固定資産			127,819	128,405	586	純資産の部合計			97,374	106,977	9,603		
資産の部合計			127,819	128,405	586	負債及び純資産の部合計			127,819	128,405	586		

⑤貸借対照表的特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	図書資産 128,405千円	
主な増減理由	購入1,614千円、寄贈335千円、除籍△1,526千円などにより、図書資産が586千円増加。	

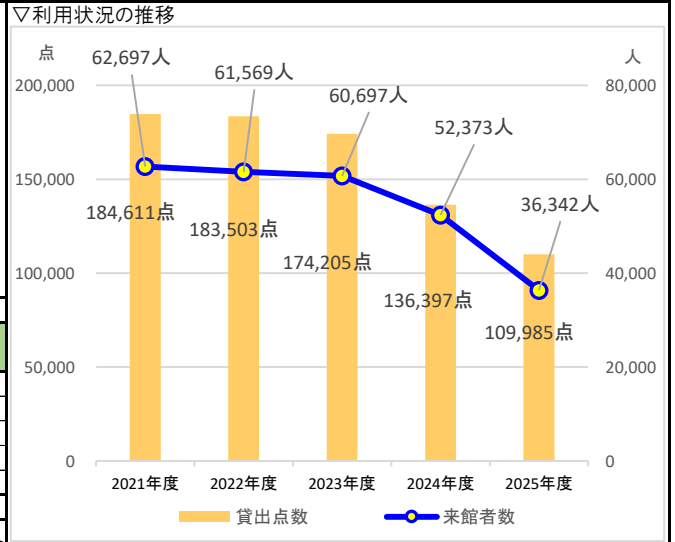
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	図書館管理事務	0.1		0.1	0.1		0.3	0.3
	各館庶務事務	0.7		0.1	0.5		1.3	1.4
	企画運営事務	0.4		0.2	0.6		1.2	1.2
	資料貸出・閲覧業務	0.8		0.6	6.9		8.3	8.2
	利用援助・普及事業				0.6		0.6	0.6
	2025年度 特定事業 合計	2.0	0.0	1.0	8.7	0.0	11.7	11.7
2024年度 特定事業 合計		3.0	0.0	0.0	8.7	0.0	11.7	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆堺市民センター改修工事に伴う休館期間が約3ヶ月あったため、来館者数が16,031人減少しました。
- ◆関連部署との共催事業として、健康推進課と連携した「11月14日は世界糖尿病デー」(糖尿病理解促進)特集を行いました。
- ◆地域で活動している4つの団体と個人3人と連携し、展示会を7回行うことができました。◆「バンザイサンタツリーをつくろう!」などの児童対象のイベントの参加者が2024年度と比較して106人増加し292人になりました。◆移動図書館が21か所のサービスステーションへ巡回を行いました。夏場の熱中症警戒アラートによる運行停止日数の増加等により、貸出冊数が2024年度26,027冊から2025年度23,817冊になりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆人件費は、職員構成の変動などにより、3,476千円減少しました。
- ◆物件費は、新図書館システム保守費及び図書館システム使用料の増加などにより、2,939千円増加しました。
- ◆維持補修費は、堺市民センター維持補修費(ブラインド修繕)などの増加により、236千円増加しました。
- ◆国庫支出金は、デジタル田園都市国家構想交付金の皆減により、5,740千円減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆堺市民センター改修工事に伴う休館から2025年7月に再開しましたが、駐車場は2025年12月からの再開であったため、来館者が大きく減少しました。来館者数を回復する取り組みが必要です。◆隣接する八王子、相模原を含む「堺地域」にある図書館として、利用を増やす取組が必要です。◆移動図書館利用者アンケート結果を分析し、定期巡回場所の見直しの検討を進める必要があります。◆子ども・若者の読書活動の推進のため、移動図書館の出張運行先の拡大に取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆改修工事に伴う休館により減少した来館者の回復を目指し、地域や様々な主体と連携した取組を進めます。◆「堺地域」の図書館として、図書館見学など地域の子供達を対象とした取組を進めます。◆移動図書館巡回場所見直し基本方針に基づいて、定期巡回場所の見直しを進めていきます。◆移動図書館の出張運行先の拡大に向けて、幼稚園・保育園等へのPR及び利用意向調査を実施します。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。◆適切な修繕などを行い、施設の安全管理に努めます。◆移動図書館の効率的・効果的な運行の検討を進めます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
特定事業名	鶴川駅前図書館事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。									
基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館条例、町田市立図書館条例施行規則									
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称		町田市立鶴川駅前図書館			
	蔵書数	115,339点	121,230点	123,059点	建設年月日		2012年8月31日			
	予約・リクエスト件数	117,957件	110,952件	124,196件			2023年度	2024年度	2025年度	
	貸出者数	147,583人	135,751人	139,560人	有形固定資産減価償却率		-	-	-	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに引き続き取り組む必要があります。◆出版社との連携など書店ならではの図書館サービスに継続して取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。				◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。			
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。				◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。			
◆2026年度に指定期間が終了するため、公募にむけて要求水準や業務仕様書の見直しに取り組めます。							
取組状況	個別取組	◎	民間事業者の特性を活かし、出版社と連携した「撮影会」や書店と連携した町田パリオでの「出張おはなし会」を実施しました。				
		○	定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングを行い、サービス水準を維持・向上させました。				
		○	現行の指定管理者の運営状況をふまえて、公募に向けた要求水準や業務仕様書を見直しました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	494,928	504,926	515,125	525,530	525,530	1年間に貸出した図書資料の延べ点数(電子書籍は含まない)
		実績	429,263	391,689	412,394		(2026年度)	
来館者数	人	目標	339,752	349,647	359,830	370,310	370,310	1年間に来館した利用者の延べ人数(2025年度から機器の入れ替えにより、来館者数のカウント方法に変更あり)
		実績	353,399	390,270	328,479		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2024年度と比較して貸出点数は20,705点増加しました。来館者数はシステム更改に伴う計測機器入替の影響もあり61,791人減少しました。◆「町田ムササビ保全研究グループ」と連携展示を行うとともに、和光大学保育コースのゼミと連携して学生が選んだ絵本のPOP展「おはなしの花束」を開催しました。◆夏休み子どもフェアでのイベント「かいて！まわして！シールラリー」では、様々な本に触れられるようガチャガチャとシールラリーを組み合わせたイベントとすることで、延べ322人の参加がありました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	2,195	2,342	4,322	1,980	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	129,219	143,251	142,887	△ 364		国庫支出金	0	1,473	0	△ 1,473
	うち委託料	112,041	125,622	116,607	△ 9,015		都支出金	85	1,092	0	△ 1,092
	維持補修費	429	1,300	0	△ 1,300		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	56	56	2	△ 54		その他	169	202	246	44
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	254	2,767	246	△ 2,521
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 131,864	△ 144,685	△ 149,467	△ 4,782
	賞与・退職手当引当金繰入額	219	503	2,502	1,999		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	132,118	147,452	149,713	2,261		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 131,864	△ 144,685	△ 149,467	△ 4,782
	特別費用(g)	2,163	1,646	2,399	753		特別収入(f)	717	4,946	335	△ 4,611
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 1,446	3,300	△ 2,064	△ 5,364		当期収支差額(e)+(h)	△ 133,310	△ 141,385	△ 151,531	△ 10,146

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 4,320千円 など	鶴川駅前図書館指定管理委託料 114,298千円 図書館システム使用料 24,500千円 図書館書籍等配送業務委託料 954千円 など
主な増減理由	職員構成の変動などにより、1,980千円増加。	新図書館システム使用料や鶴川駅前図書館指定管理委託料などが増加した一方、新システム導入委託料が減少したことなどにより、364千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	維持補修費 0千円	国庫支出金 0千円
主な増減理由	空調室外機の改修工事が完了したことにより、1,300千円減少。	デジタル田園都市国家構想交付金の皆減により、1,473千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
貸出1点あたりコスト	点	2025	412,394	363	△ 13	貸出点数が増加したことなどにより、単位あたりのコストが13円減少しました。
		2024	391,689	376	68	
		2023	429,263	308	7	
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	1,332	112,397	1,697	人件費が増加したことなどにより、単位あたりのコストが1,697円増加しました。
		2024	1,332	110,700	11,512	
		2023	1,332	99,188	114	

④貸借対照表

(単位:千円)

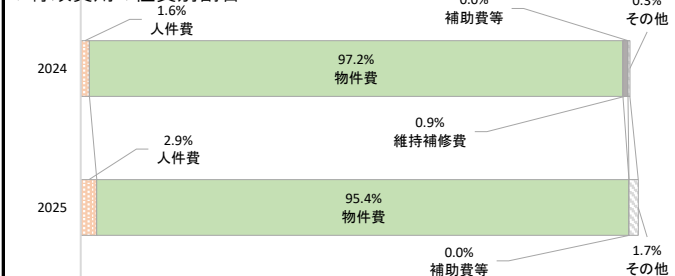
勘定科目			2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			242	455	213
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	賞与引当金			242	455	213
		土地		0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)		0	0	固定負債			2,244	4,228	1,984
		建物減価償却累計額		0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)		0	0	退職手当引当金			2,244	4,228	1,984
		工作物減価償却累計額		0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	負債の部合計			2,486	4,683	2,197
		有形固定資産		0	0	純資産			162,706	162,619	△ 87
		土地		0	0						
		工作物(取得価額)		0	0						
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0						
		無形固定資産		0	0						
その他の固定資産			165,192	167,302	2,110	純資産の部合計			162,706	162,619	△ 87
資産の部合計			165,192	167,302	2,110	負債及び純資産の部合計			165,192	167,302	2,110

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産		
決算額の主な内訳	図書資産 167,302千円	特になし	特になし
主な増減理由	購入3,325千円、寄贈849千円、除籍△2,399千円などにより、図書資産が2,110千円増加。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



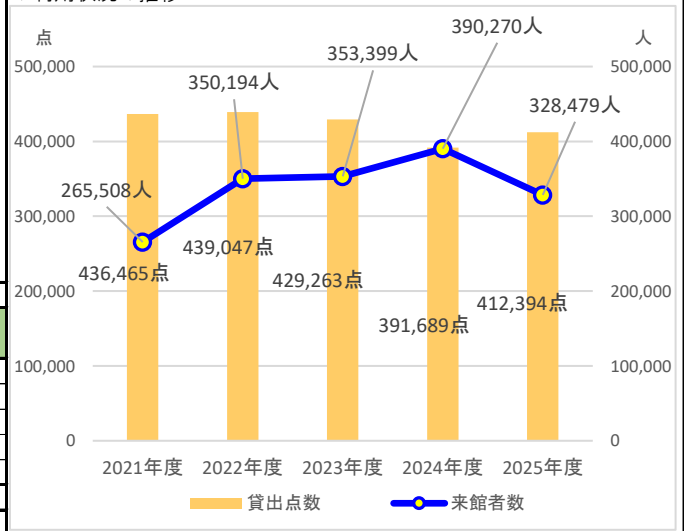
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳							
図書館管理事務						0.0	0.0
各館庶務事務						0.0	0.0
企画運営事務	0.6					0.6	0.2
資料貸出・閲覧業務						0.0	0.0
利用援助・普及事業						0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2
2024年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆久美堂本町田店での予約本受渡しサービスの利用冊数は、2025年度が約9,800点となり、2024年度と比較して約700点増加しました。◆読書バリアフリー実現のための取組として点字絵本や大活字本など様々な方が利用しやすい本を集めた「りんごの棚」を設置しました。◆特集コーナーに力を入れて、FC町田ゼルビアの夏季イベント「夏の冒険は、町田から。」と連携した「本の冒険は、図書館から。」を実施し、441冊の貸出がありました。効果的な特集内容を検討することで指定管理者職員のスキルや意識が向上しています。◆新春イベントとして出版社と連携して実施した「本の福袋 with おしりたんてい撮影会」ではキャラクターの着ぐるみを活用したイベントとして過去最高となる延べ141人の参加がありました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用は2024年度に比べて次期指定管理者選定の準備などにより人件費が増加しましたが、主な成果である貸出点数も増えており単位あたりコストは改善しています。
◆利用者満足度は約97.3%と高く、2024年度と比べて微増もしていることから、指定管理者制度導入の効果が発揮されています。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組の展開が必要です。
◆目標を達成できるよう、これまでの取組結果を活かした貸出・来館促進の取組を進める必要があります。
◆指定管理者による管理運営のサービス水準を維持・向上させるため、定例連絡会や利用者アンケート調査などのモニタリングに引き続き取り組む必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に導入します。 ◆指定管理者による管理運営サービスの水準を維持・向上させるようモニタリングを行います。 ◆庁内手続きに沿って、次期指定管理者の選定を進めます。	◆「町田市教育プラン24-28」に掲げた、子ども・若者の読書活動の推進、多様な図書館サービスの提供、図書館再編と運営体制の構築などの取組を推進します。 ◆指定管理者により提供される図書館サービス水準のモニタリングや、管理運営状況評価を実施します。

2025年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	"ことばの扉"として、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め豊かな心を育む場所となります。				取 他 り 自 組 治 み 体 等 の	◆東京都内で"文学館"の名を冠する総合文学館は日本近代文学館、世田谷文学館、当館の3館のみです。多摩26市唯一の総合文学館として、文字・ことば・文学をテーマにした特色のある事業を展開しています。◆近隣の文学館でも施設の老朽化が深刻化しており、鎌倉文学館では2023年から2029年までかけて大規模修繕が行われています。			
所管事務	◆ことばや文学をテーマとする展覧会、講座、講演会、教育普及事業に関すること ◆小・中・高生を対象にした創作コンクールに関すること ◆図書館・文学館資料の貸出、閲覧、寄贈、寄託等に関すること ◆個人・サークルへの会議室の貸出に関すること ◆ことばや文学の普及を目的とした広報活動に関すること ◆施設・設備の維持管理に関すること								
基本情報	根拠法令等 町田市民文学館条例、町田市民文学館条例施行規則								
基本情報		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市民文学館ことばらんど			
	利用料金収入 (単位:千円)	3,058	2,984	3,822	建設年月日	2006年6月1日			
	受益者負担比率 (単位:%)	2.2	1.8	2.4		2023年度	2024年度	2025年度	
					有形固定資産減価償却率	32.9%	34.3%	36.5%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力を伝えるため、柔軟な発想で事業を企画・展開する必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では効果的なPRを行い、より多くの方に応募していただく必要があります。◆アウトリーチ事業を改善・充実させ、市民が文学にふれあう機会を作り出す必要があります。◆積極的に地域や人とのつながりを作り出し、幅広い層の方に文学館を利用してもらう必要があります。◆施設老朽化に対し、関係部署と連携し、適切に町田市中長期修繕計画に基づく改修工事を進める必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆ことばや文字、文学の魅力を伝え、新たな学びや学びのきっかけとなる展覧会や教育普及事業を実施します。◆創作の楽しさを多くの児童・生徒に知ってもらうため「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。◆文学館の改修工事内容や、一時休館中の対応・事業内容を検討します。		◆市民にとって新たな学びとなる事業を実施します。◆若い世代にことばの魅力を伝える事業を推進します。◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、X、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。	
取 組 み 状 況	○ 個別取組	○ 展覧会観覧者数は目標に達しませんでした。春季展は20代以下の世代が3割を占め、また直近3年間の平均値は26,711人となりました。	
	○ 共同取組	○ 中高生から20代を対象とした展覧会やトークショーなどの事業を9件行い、若い世代が文学やことばに触れる機会を提供しました。	
	○ 連携取組	○ 「ことばらんどショートショートコンクール」では、目標値には届きませんでした。出張講座や出張展示を積極的に行いPRに努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	25,000	23,500	26,500	16,000	16,000	年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	22,902	32,548	24,684		(2026年度)	
ショートショートコンクール応募件数	件	目標	1,000	1,050	1,100	1,150	1,250	2021年度から実施している「ことばらんどショートショートコンクール」の応募件数
		実績	1,002	1,149	847		(2028年度)	

②成果指標およびその他の成果の説明

◆展覧会観覧者数は目標には達しませんでした。直近3年間は安定した観覧者数を維持しています。夏季展では乳幼児親子を中心に9,895人が来館しました。有料開催の秋季展では音楽アーティストの楽曲の「詞」に注目した企画展を実施。全国からファンが来館し、観覧者数は2024年度の同時期に比べ644人増加して3,580人となりました。◆ショートショートコンクールでは市庁舎と中央図書館にて、市内大学生との協働によるイラスト展等を4回実施し事業のPRに努めた他、出張授業を通じ児童・生徒に創作の楽しさを知る機会を提供しました。◆町田市中長期修繕計画に基づく改修工事の内容について、関係部署と設計内容を確定しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	74,847	83,112	90,805	7,693	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	1,332	1,301	2,112	811		保険料	0	0	0	0
	物件費	38,177	41,871	36,360	△ 5,511		国庫支出金	1,959	2,572	1,551	△ 1,021
	うち委託料	18,728	22,104	17,506	△ 4,598		都支出金	0	6,666	0	△ 6,666
	維持補修費	1,421	2,946	2,370	△ 576		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	3,058	2,984	3,822	838
	補助費等	2,617	2,847	2,847	0		その他	913	1,088	853	△ 235
	減価償却費	14,374	14,614	15,498	884		行政収入 小計(a)	5,930	13,310	6,226	△ 7,084
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 132,462	△ 151,009	△ 155,846	△ 4,837	
	賞与・退職手当引当金繰入額	6,956	18,929	14,192	△ 4,737	金融収支差額(d)	0	0	0	0	
	行政費用 小計(b)	138,392	164,319	162,072	△ 2,247	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 132,462	△ 151,009	△ 155,846	△ 4,837	
	特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	2,694	0	0	0	
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	2,694	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 129,768	△ 151,009	△ 155,846	△ 4,837	

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	使用料及手数料
決算額の主な内訳	施設貸出・管理業務委託 3,731千円 新図書館システム管理事務 3,932千円	施設使用料 2,491千円 展覧会観覧料 1,331千円
主な増減理由	図書館システム更改完了、施設貸出・管理業務委託削減などにより、5,511千円減少。	展覧会観覧料収入増等により838千円増加。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	避難誘導灯修繕 517千円 ウォンシュレット設置修繕 329千円 受変電設備パワーヒューズ修繕 195千円 など	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,551千円
主な増減理由	LED照明化修繕が2024年度に終了したことなどにより、576千円減少。	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金などの減少により、1,021千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
来館者1人あたりコスト	人	2025	68,310	2,373	△ 257	物件費、維持補修費の減少と来館者数増加のため、来館者1人あたりのコストは、257円(9.8%)減少しました。
		2024	62,490	2,630	△ 23	
		2023	52,155	2,653	307	
開館1日あたりコスト	日	2025	304	533,132	△ 7,391	物件費、維持補修費の減少のため、1日あたりのコストは、7,391円(1.4%)減少しました。
		2024	304	540,523	80,749	
		2023	301	459,774	△ 27,473	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0		0	0	流動負債		8,034		8,686		652
	不納欠損引当金		0		0	0	還付未済金		0		0		0
	その他の流動資産		0		0	0	地方債		0		0		0
事業用資産	有形固定資産		687,680		672,182	△ 15,498	賞与引当金		8,034		8,686		652
	土地		220,902		220,902	0	その他の流動負債		0		0		0
	建物(取得価額)		710,537		710,537	0	固定負債		51,797		67,901		16,104
	建物減価償却累計額		△ 243,759		△ 259,257	△ 15,498	地方債		0		14,000		14,000
	工作物(取得価額)		0		0	0	退職手当引当金		51,797		53,901		2,104
	工作物減価償却累計額		0		0	0	その他の固定負債		0		0		0
	無形固定資産		0		0	0	負債の部合計		59,831		76,587		16,756
	インフラ資産		0		0	0	純資産		627,849		595,595		△ 32,254
	土地		0		0	0							
	工作物(取得価額)		0		0	0							
固定資産	工作物減価償却累計額		0		0	0							
	無形固定資産		0		0	0							
	建設仮勘定		0		0	0							
	その他の固定資産		0		0	0	純資産の部合計		627,849		595,595		△ 32,254
	資産の部合計		687,680		672,182	△ 15,498	負債及び純資産の部合計		687,680		672,182		△ 15,498

⑤貸借対照表の特徴的事項

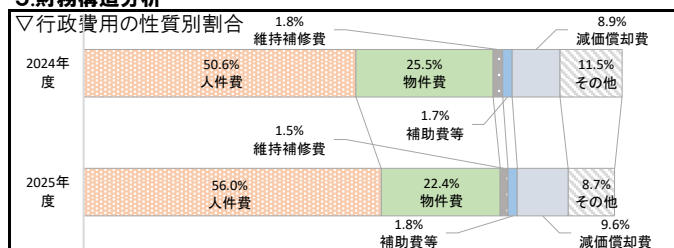
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	町田市民文学館ことばらんど 220,902千円	町田市民文学館ことばらんど 710,537千円	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により15,498千円減少。	

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	6,226	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	14,000
行政サービス活動支出	143,819	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 137,593	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	14,000
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 123,593
				一般財源充当調整額	123,593

5.財務構造分析

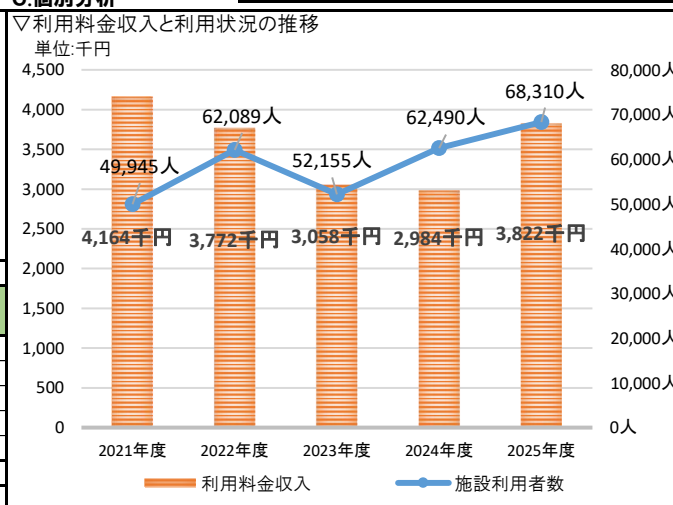


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
管理事務	3.5			0.2		3.6	3.5
展示事業	1.9			2.2	1.1	5.2	5.2
学習事業	0.4			1.0	0.3	1.7	2.1
資料収集事業	0.3			3.8	0.3	4.3	4.9
						0.0	0.0
2025年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	7.1	1.7	14.8	15.7
2024年度 歳出目 合計	6.0	0.0	0.0	7.3	2.4	15.7	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆年間観覧者数は32,548人から24,684人(△7,864人)に減少しましたが、魅力的なテーマ設定や効果的な広報活動により、観覧料収入は785千円から1,331千円(+546千円)に増加しました。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では出張授業を2024年度と同様に16回実施しましたが、応募件数は302件減少しました。◆SNSを通じた情報発信では、有料広告を有効的に利用した結果、Instagramのフォロワー数が1,188人増え1,403人となりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆会議室利用者が38,563人から42,633人(+4,070人)へ、図書の個人貸出者数が4,236人から5,241人(+1,005人)へとそれぞれ増加したこと等により、来館者数は68,310人(+5,820人)となりました。これにより、より多くの市民の皆様が文学館へ来館いただくことができました。◆事業の広報手法の見直しを行い、小学校への紙媒体でのチラシ送付を小中学校の保護者連絡アプリでの情報配信に切り替えたことにより、2024年度比で約17%(約32,000枚)の印刷物削減を実現しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆若い世代に文学やことばへの関心を持ってもらうため、独自の視点やユニークなテーマによる展覧会・教育普及事業を実施し、その魅力を伝える必要があります。◆「ことばらんどショートショートコンクール」では、出張授業を通じて多くの児童・生徒に創作の楽しさを伝える必要があります。◆休館に向けて他施設と連携をとり、アウトリーチ事業を充実させることにより、市民が文学にふれあう機会を確保する必要があります。◆改修工事に向けて、関係部署と連携していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆休館中も文学やことばに触れる機会を市民に継続的に提供できるよう、他施設との連携を図り事業を実施します。◆創作の楽しさを多くの児童・生徒に知ってもらうため「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。◆2025年度の成果を踏まえ効果的なSNSの活用を進めます。	◆市民にとって新たな学びとなる事業を実施します。◆若い世代にことばの魅力を伝える事業を推進します。◆地域協力者や団体、事業所等と連携して事業を実施します。◆YouTube、X、Instagram等のSNSを活用して、効果的なPR活動を行います。

